



JAL FOUNDATION PROJECT REPORT

JAL財団 プロジェクトレポート2024

公益財団法人JAL財団

〒140-0002 東京都品川区東品川 2丁目4番11号
2-4-11 Higashi-shinagawa, Shinagawa-ku, Tokyo 140-0002
Tel. 03-5460-3900 Fax. 03-5460-5997
<https://www.jal-foundation.or.jp/>



JAL FOUNDATION
公益財団法人JAL財団

Mission Statement

JAL財団は、人々が互いに理解し協力し合える平和な国際社会と未来に続く豊かさのため、
人と社会と自然に感謝しまた人と社会に感謝されるよう、
さまざまな事業を展開しながら次世代にふさわしい「地球人」の育成に貢献します。

The JAL Foundation will contribute to the development of the next generation of global citizens through various projects in order to show and earn the appreciation of people, society and nature, and to foster a peaceful global community based on international understanding and cooperation and ensure the continual betterment of society.

財団の目的 Purpose of JAL Foundation

本財団は、豊かな地球を次世代に引き継ぐ責任を果たすため、航空と環境の共存を目指すとともに、
未来に続く豊かさを地球規模で考え自ら行動できる人財（以下「地球人」という）の育成につながる事業を展開し、
人と地球に共感をもてる社会の実現を目指すことを目的とする。

In order to fulfill our responsibility of leaving a richer environment for the next generation, the JAL Foundation aims to coexist with aviation and the environment and conduct projects that lead to the development of human resources who can think and act on a global scale (global citizens) to ensure the continual betterment of society.

JAL 財団は以下のことを活動テーマとして取り組みます

Themes of JAL Foundation

未来への貢献 子ども・青少年への育成活動

Contributing to the Future-Nurturing Children and Youth

平和への貢献 国際親善・文化交流活動

Contributing to Peace-International Goodwill, Cultural Exchange

社会への貢献 環境保護への支援活動

Contributing to Society-Environmental Preservation Activities

はじめに

2024年度より、理事長に就任いたしました赤坂祐二です。平素より公益財団法人JAL財団の活動に、ご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当財団は、豊かで平和な社会の実現に貢献し、航空の発展に寄与することを目的に、1990年に設立されました。特に「地球環境の保護と人育成に資する事業」を重点テーマとして35年間に及ぶ取り組みを行ってまいりましたが、まさにこれらは現在、航空業界が直面する問題と一致するばかりではなく、人類の未来を決める最重要課題と言っても過言ではないでしょう。本財団設立理念の先見性に敬意を表すると同時に、長期的視野と崇高な理念をもって弛まず取り組むことの大切さを強く感じております。

当財団の代表的な活動として、まずは「CONTRAILプロジェクト」があげられます。日本航空の複数の国際線航空機に観測装置を搭載し、長年にわたって官民共同で地球規模の「大気の観測」を行ってまいりました。

他に例のない取り組みとして高い評価を受けるとともに、これまでに蓄積された膨大なデータは、近年における劇的な地球規模の大気変化を的確に捉えており、世界中の研究者によって地球温暖化メカニズムの解明やさまざまな研究分野で活用されています。

また若者や子どもたちの国境を越えた相互理解・文化交流の場として「JALスカラシッププログラム」・「世界こどもハイクコンテスト」・「地球人育成プログラム」といった取り組みを続け、地球規模で考え行動する人財の育成を行ってきました。こうしたプログラムに参加された方々の交流がその後も続いていることや、多くの方々が今や世界中の各界の第一線で活躍されている様子などをお聞きますと、皆さまのご協力のもとに続けてまいりました当財団の長い取り組みの意義や価値を、より一層感じる次第です。

さてこの度、当財団の2024年度における取り組みをまとめました「プロジェクトレポート2024」を発行いたしました。当財団の事業につきまして、先に述べたこれまでの活動実績・歴史に加え、最新の活動状況についてもご覧いただけますと幸いです。

未来を担うこれからの世代に、豊かで平和な世界を引き継いでいくために、引き続き温かいご支援とご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2025年6月

公益財団法人JAL財団
理事長 赤坂 祐二

赤坂 祐二

AKASAKA Yuji
Chairperson JAL Foundation



Greetings

My name is AKASAKA Yuji, I have been appointed as Chairman of the JAL Foundation from fiscal year 2024. I would like to thank everyone for their continued support and cooperation in the activities of the JAL Foundation.

The JAL Foundation was established in 1990 with the aim of contributing to the realization of a prosperous and peaceful society while promoting the development of aviation. Over the past 35 years, we have focused on initiatives under the themes of "Projects that contribute to the protection of the global environment and the development of human resources". These are not only the issues facing the aviation industry today, but also the most important issues that will determine the future of humanity. I deeply respect the foresight of the foundation's founding principles and strongly feel the importance of long-term vision and steadfast dedication to lofty ideals.

One of our foundation's flagship activities is the "CONTRAIL Project". For many years, we have been carrying out global-scale atmospheric observations jointly with the public and private sectors by installing observation equipment on Japan Airlines' international aircraft. This initiative, highly praised as an unparalleled effort, has amassed extensive data that accurately captures the dramatic global atmospheric changes in recent years. Researchers worldwide have utilized this data to elucidate the mechanisms of global warming and in various other research fields.

Additionally, we have continued to develop human resources who think and act on a global scale through the "JAL Scholarship Program", "World Children's Haiku Contest" and the "Program for Fostering Globally-Minded Citizens".

I feel even more deeply the significance and value of the Foundation's longstanding efforts, which have been carried out with the cooperation of all of you.

We are pleased to announce the publication of "JAL Foundation Project Report 2024" a summary of the Foundation's efforts in fiscal year 2024. We hope that you will take the time to read about the Foundation's latest activities, in addition to our past achievements and history as mentioned above.

We hope that you will continue to give us your warm support, guidance, and encouragement so that we can pass on a prosperous and peaceful world to the generations to come.

June 2025

AKASAKA Yuji

Chairperson JAL Foundation

目次 CONTENTS

◆ Mission Statement	2
◆ はじめに Greetings	3
◆ 目次 Contents	4
◆ JAL財団概要 Profile of JAL Foundation	5
◆ JALスカラシッププログラム JAL Scholarship Program	6
◆ 世界こどもハイクコンテスト World Children's Haiku Contest	8
◆ 大気観測 Atmospheric Observation Project	10
◆ 地球人育成プログラム Program for Fostering Globally-Minded Citizens	12
◆ メディア Media Coverage	14
◆ 活動実績 Project History	15
◆ 評議員・役員・賛助会員 Councilors, Directors, Auditors, Chairman, Supporting Members	32

報告期間／Reporting Period

2024年4月～2025年3月（2024年度）を原則として掲載しています

This project report generally covers the period from April 2024 to March 2025 (FY2024).

JAL 財団概要

Profile of JAL Foundation

名 称

公益財団法人JAL財団

Name

JAL Foundation

設 立

1990年4月16日

Foundation Date

April 16, 1990

目 的

本財団は、豊かな地球を次世代に引き継ぐ責任を果たすため、航空と環境の共存を目指すとともに、未来に続く豊かさを地球規模で考え自ら行動できる人財（以下「地球人」という）の育成につながる事業を展開し、人と地球に共感をもてる社会の実現を目指すことを目的とする。

Purpose of JAL Foundation

In order to fulfill our responsibility of leaving a richer environment for the next generation, the JAL Foundation aims to coexist with aviation and the environment and conduct projects that lead to the development of human resources who can think and act on a global scale (global citizens) to ensure the continual betterment of society.

事 業

1. 国内外の有識者との知識交流等、未来に続く豊かさを次世代に引き継ぐ地球人の育成と交流を推進する事業
2. 日本の文化を海外へ紹介する等、国際理解および国際交流を推進する事業
3. 航空と環境の共存を目指すための調査・研究ならびにその成果を実現するための事業
4. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

Outline of Projects

1. Projects to promote the development and exchange of global citizens who will pass this drive to create a better future to the next generation, by such means as exchanges of knowledge with experts in Japan and overseas.
2. Projects to promote international understanding and exchange such as introducing Japanese culture overseas.
3. Research and studies for coexistence with aviation and the environment, and projects to realize the results of such research and studies.
4. Other projects necessary to achieve the goals and objectives of the JAL Foundation.

評議員・役員

理 事	6 名
監 事	2 名
評 議 員	6 名

(2025 年 3 月 31 日現在)

Councilors, Directors, Auditors

6 Directors
2 Auditors
6 Councilors

(as of 31 March 2025)

事務局

〒140-0002
東京都品川区東品川二丁目4番11号
E-mail: zaidan@jal.com
URL: <https://www.jal-foundation.or.jp/>

Office Address

2-4-11 Higashi-shinagawa, Shinagawa-ku, Tokyo
140-0002
E-mail: zaidan@jal.com
URL: <https://www.jal-foundation.or.jp/>

✈ JALスカラシッププログラム

JALスカラシッププログラムは、アジア・オセアニアの大学生を日本へ招待し、日本人学生との交流・研修や文化体験を通じて日本への理解や国境を越えた相互の理解を促進し、将来のアジア・オセアニア地域を担う若者を育成することを目的としている。

このプログラムは昭和50年(1975年)に日本航空によって開始され、平成2年(1990年)に発足した日航財団(現:JAL財団)が運営を引き継ぎ、時代のニーズを反映させ、内容の充実を図りつつ継続しており、これまでに1,707名の海外学生の参加を得ている。

※ 1975年～2024年の参加者実績は、P16を参照。

(1) アジア・オセアニア大学生対象プログラム

第53回となる今年度のプログラムは、15の国と地域から24名の海外学生を招き、「SDGs-持続可能な未来へ-」をテーマとして、日本語を使用して開催した。日本人の学生25名(福岡地区含む)も、海外学生とともに研修やグループワークに臨み、交流を深めた。

開催期間	2024年6月27日～7月18日(22日間) オンライン 6月27日～7月3日 対面 7月4日～7月18日
テ ー マ	「SDGs」～持続可能な未来へ～
開 催 地	東京都江東区、品川区、中央区、渋谷区、三鷹市、 神奈川県相模原市、福岡県宗像市、北九州市
参 加 者	韓国、北京、大連、上海、広州、天津、香港、フィリピン、台湾、 ハノイ、ホーチミン、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、 マレーシア、シンガポール、インドネシア、インド、グアムの 各地にて公募・選抜された大学・大学院生24名 東京・福岡地区で公募・選抜された日本人大学生25名(東 京11名、福岡14名)
協 力	公益社団法人日本環境教育フォーラム(JEEF)
後 援	国土交通省、外務省、文部科学省、環境省
協 賛	日本航空株式会社
開催概要	オンラインプログラムと訪日プログラムのハイブリッド形式 基調講演、フィールドワーク、アクションプラン発表会

オンラインプログラムと訪日旅行双方の利点を活かしたハイブリッド形式で、6月27日から7月18日の22日間(オンラインプログラム7日間、訪日プログラム15日間)で実施した。今年は、

アジア・オセアニアの15の国と地域のから24名の学生を日本に招き、東京および近郊、福岡県宗像市、北九州市において研修とフィールドワーク、そして日本人学生との交流の機会を設けた。テーマである「SDGs 持続可能な未来へ」のもと、アジア・オセアニアと日本の学生たちがプログラム期間中に考え、調べ、議論したことを7月17日のアクションプラン発表会にて発表した。

福岡プログラムでは、九州大学大学院清野聡子准教授による基調講演「海洋保全と私たちの暮らし」を受講し、福岡教育大学の学生14名と海の自然を守る大切さを学んだ。宗像市内のさつき松原海岸でのビーチクリーンを行った後、船で大島に渡り大島学園の中学生とビーチクリーンを行ったが、それぞれの海岸に流れ着いた海洋プラスチックの違いや、アジア・オセアニアの学生たちが遠く自分たちの国や地域から日本の海岸に流れ着いたプラスチックごみを実際に目で確認できたことは、海洋保全を学ぶ上で大きな出来事だった。その他、シャボン玉石けん工場の見学や環境学習機能を持つ施設であるタカミヤ環境ミュージアムを訪れ、環境汚染から世界の環境都市を目指す北九州市の取り組みを学んだ。

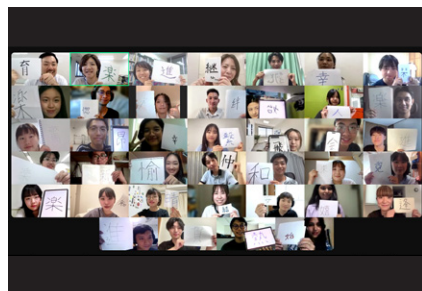
東京プログラムでは、廃棄された食べ物から豚の飼料を作り食品ロス解決の取り組みをしている日本フードエコロジーセンター、農作物と自然エネルギーを同時に生産する「ソーラーシェアリング」を実現した農園さがみこファームの視察を行った。また、中央防波堤埋立処分場・廃棄物処理施設では、東京都23区内で出たごみがどのように処分されているのかを見学し、家庭のごみが埋立地に処分されるまでの流れや、粗大ごみを施設内で解体処分する方法など、ごみの種類によって様々な処分方法があることを学んだ。

また、企画ならびにファシリテーターについて公益社団法人日本環境教育フォーラム(JEEF)の協力を得るとともに、日本人大学生11名も海外学生をサポートした。

実際のモノを目で見て肌で感じ学ぶことができる対面プログラムの大切さ、学生たちの血が通う交流の深さを感じることができた22日間となった。

(2) 同窓会開催

財団では、2013年度より海外各地域別に同窓会(リユニオン)を開催しているが、今年度はシンガポールとタイで対面形式の地区同窓会が行われた。5月17日、約7年ぶりに実施したシンガポールでは38名、10月1日のタイでも30名の卒業生が参加し、年代を超えた交流を深めた。



一筆入魂

At Online Programs-One Kanji character to express how you feel now



JAL スカイミュージアム
Visit to JAL Sky Museum



育樹活動フィールドワーク
Tree Cultivation Fieldwork

※写真は2024年度スカラシップのものです。

✈ JAL Scholarship Program

The JAL Scholarship Program invites university students from the Asia-Oceania region to Japan to promote understanding of Japan and international understanding and develop the next generation of leaders through international exchanges, field work and research, and cultural activities with Japanese students.

The program was initiated by Japan Airlines in 1975 and was transferred to the JAL Foundation (formerly Nikko Foundation), when it was established in 1990. We have continuously improved the content of the program to meet the needs of the times. A total of 1,707 overseas students have participated in the program to date.

*See page 17 for the number of participants from 1975 to 2024.

(1) Program for Asia-Oceania university students

The 53th program conducted in 2024 was held in Japanese on the theme "SDGs For a Sustainable Society Let's think that we should do towards the next generation and the earth environment for the sake of affluence in the future" with 24 participating students from 15 countries and regions. 25 Japanese students from Tokyo and Fukuoka joined them in training class and group work, and deepened friendship with their international counterparts.

Period	June 27 - July 18, 2024 (22days) Online program June 27- July 3 Real program July 4- July 18
Theme	SDGs For a Sustainable Society
Venue	Koto-ku, Shinagawa-ku, Chuo-ku, Shibuya-ku and Mitaka city in Tokyo, Sagami-hara city in Kanagawa Prefecture, Munakata city and Kitakyushu city in Fukuoka Prefecture
Participants	24 university students publicly selected from South Korea, Beijing, Dalian, Guanzhou, Tianjin, Hong Kong, Philippines, Taiwan, Hanoi, Ho Chi Minh City, Thailand, Cambodia, Laos, Myanmar, Malaysia, Singapore, Indonesia, India, Guam 25 Japanese university students publicly selected from Tokyo (11), Fukuoka (14)
Cooperation from	Japan Environmental Education Forum (JEEF)
Support from	Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Ministry of Foreign Affairs, Ministry of Education, Culture, Sports, Ministry of the Environment
Sponsor	Japan Airlines Co.,Ltd.
Outline of program	Hybrid of online and inbound programs, keynote speeches, fieldwork, and action plan presentations

The "JAL Scholarship Program" was implemented for 22 days from June 27 to July 18 (7 days for the online program and 15 days for the inbound program) in a hybrid format utilizing the advantages of both the online program and inbound trip, incorporating the know-how of the online program accumulated in FY2022.

The "JAL Scholarship Program" was conducted for 22 days from June 27 to July 18 (7 days for the online program and 15 days for the inbound program). This year, 24 students from 15 countries and regions in Asia and Oceania were invited to Japan for training and fieldwork in Tokyo and its suburbs, Munakata City and Kitakyushu City in Fukuoka Prefecture, and to deepen exchanges with Japanese students. Under the theme "SDGs - Toward a Sustainable Future" students from Asia Oceania and Japan presented what they thought, researched, and discussed during the program at an action plan presentation on July 17. In the Fukuoka program, the students attended the keynote lecture "Marine Conservation and Our Lives" by Associate Professor SEINO Satoko of Kyushu University Graduate School and learned the importance of protecting marine nature with 14 students from Fukuoka University of Education. After a beach cleanup at Satsukimatsubara Beach in Munakata City, the students took a boat to Oshima to conduct a beach cleanup with junior high school students from Oshima Gakuen. It was a great opportunity to learn about ocean conservation. Other highlights of the program included a tour of the Shabondama Soap Factory and a visit to the Takamiya Environmental Museum, a facility with environmental learning functions, where the students learned about Kitakyushu City's efforts to move away from environmental pollution and toward becoming a world-class environmental city. The Tokyo program included a visit to the Japan Food Ecology Center, which is working to solve food loss by making pig feed from discarded food, and we conducted an inspection of Sagamiko Farm, which has realized "solar sharing" to simultaneously produce crops and natural energy. In addition to the cooperation of the Japan Environmental Education Forum (JEEF) in planning and facilitating, 11 Japanese university students also supported the overseas students. The JAL Scholarship Program was a 22-day program that allowed the students to experience the importance of face-to-face programs, where they could learn by seeing and feeling things with their own eyes, and to feel the depth of the exchange between the students.

(2) Reunions

The JAL foundation has been holding reunions in various overseas regions since the 2013 fiscal year. This year, in-person regional reunions were held in Singapore and Thailand. On May 17, 38 alumni participated in the Singapore reunion, which was held for the first time in about seven years, and on October 1, 30 alumni attended the Thailand reunion, deepening cross-generational exchanges.



アクションプラン発表会
Action plan presentations



さつき松原ビーチクリーン
Beach cleanup at Satsukimatsubara Beach



タカミヤ環境ミュージアム
Visit to Takamiya ENvironmental Museum

* The photo is from the 2024 Scholarship.

✈世界こどもハイクコンテスト

世界こどもハイクコンテストは、世界の子どもたちにハイク創作の楽しさを広めその感性を養い、俳句を生み出した日本文化と現在の日本への理解を深めることで、相互理解と国際交流を促進することを目的としている。2年に一度、日本および全世界の15歳以下の子どもたちを対象に、絵とハイクで構成された作品を募集する「世界こどもハイクコンテスト」を開催し、その優秀作品を「地球歳時記」という一冊の絵本にまとめ出版してきた。この「地球歳時記」は、現地語、英語、日本語の3ヶ国語で表記し、日本だけでなく世界に向けて作品を紹介したものである。

※「ハイク」：日本語の五七五で詠まれる俳句に対し、海外の言語で詠まれる三行詩を「ハイク」としている。

※これまでの参加地域

アイルランド、アメリカ、アラブ首長国連邦、アルメニア、アンゴラ、イギリス、イタリア、インド、インドネシア、ウクライナ、ウズベキスタン、ウルグアイ、エクアドル、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、ガーナ、カナダ、カンボジア、ギリシア、クロアチア、ケニア、コロンビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロベニア、セネガル、タイ、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ネパール、ノルウェー、パラオ、バングラデシュ、東アジア（中国、香港、台湾、韓国）、フィジー、フィリピン、フィンランド、ブータン、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベトナム、ペネズエラ、ペルー、ポーランド、ポルトガル、マレーシア、メキシコ、モザンビーク、モルディブ、モロッコ、モンゴル、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ロシア

ハイクプロジェクトの歴史

東京オリンピックが開かれた1964年、日本航空は、日本文化を海外へ紹介する事業のひとつとして、ハイクを取り上げ、アメリカのラジオ音楽番組を通して「ハイクコンテスト」を行ったところ、全米から4万1千ものハイクが投稿された。この呼びかけが、今日につながるハイクプロジェクトの始まりであった。その後、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアでハイクコンテストを実施。いずれの国でも、世界最短詩のハイクに子どもたちや教師たちが大変な関心を示し、応募作品も想像以上に素晴らしいものであった。

日航財団（現：JAL財団）設立の1990年、大阪で開催された「花と緑」の万国博覧会にあわせ、世界中の15歳以下の子どもたちを対象に「第1回 世界こどもハイクコンテスト」を開催し、今日では18回を数えるに至る。

これまで開催した18回の世界こどもハイクコンテストには、世界中から76万を超える作品が寄せられており、絵とハイクで構成される作品には、子どもたちの目の前の光景や記憶にある情景が見事に表現され、お国柄や社会情勢やものの見方が反映されている。ハイクに絵を添えることで、それらに対する理解がより深まっている。なお、回を重ねるごとに参加地域は増えており、近年では点字・点図作品も寄せられハイクを通した子どもたちの交流が深まっている。また、作品集「地球歳時記」は、国内外の参考書、教科書などにも紹介され、教育の分野でも活用されている。

また、冊子「俳句の作り方」は、現在、18の言語（*）で制作しており、JAL財団のWEBに掲載し、日本文化への理解と国際交流の促進をはかっている。

* 日本語、英語、中国語（簡体文字、繁体文字）、フランス語、ドイツ語、イタリア語、韓国語、ロシア語、スペイン語、トルコ語、ポルトガル語、フィンランド語、リトアニア語、オランダ語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語

※1989年～2024年の活動実績は、P20を参照。

第18回世界こどもハイクコンテスト開催 テーマ「かぞく」

第18回大会は「かぞく」をテーマに2023～2024年に60大会を開催し、日本語大会では、2,615作品、世界大会では、19,373作品が寄せられた。

※第18回大会 テーマ「かぞく」2023～2024

開催期間	日本語大会 2023年06月1日～2023年9月30日 世界大会 2023年10月1日～2024年1月15日
テーマ	かぞく
協賛	日本航空（株）
協力	国際俳句協会
後援	外務省、文化庁、国際交流基金、 ユニセフ日本委員会、他、各国協力機関

第18回世界こどもハイクコンテストは、各国の大使館・領事館の協力のもと、JAL支店、委託団体と連携し46の国と地域で大会を開催し、28言語による作品が寄せられた。2024年の夏に大賞作品のなかから3作品を選出し、作者を東京に招いて表彰式を開催した。すべての入賞作品については、JAL財団ホームページ上の「世界こどもハイクコンテスト特設サイト」にて公開しております。

協賛事業

俳句事業の一環として、8月に松山で開催された「第27回俳句甲子園」に、賞品協賛を行い、「世界こどもハイクコンテスト」入賞作品を掲載したバナー、絵葉書、書籍『地球歳時記』を展示致しました。また11月には第29回「草枕国際俳句大会」に賞品協賛を行い、若年層の俳句制作の支援と本財団の俳句事業の告知を行いました。松山市立子規記念博物館では入賞作品の展示を行い、松山市民及び観光客の皆さまに当ハイクコンテストの告知を行っております。

新たな取り組みとしては、海外の学校や団体と連携して俳句の普及に努めております。例えば、ワシントン州シアトルの日本文化会館では、文化の日にハイクコーナーを設け、過去のコンテスト入賞作品と「地球歳時記」を展示し俳句を作るイベントが開催されました。また、アリゾナ州のモンテッソーリ保育園では、「地球歳時記」の読み聞かせが行われ、保育園児が俳句を学び創作しております。このようにコンテストから派生した活動が生まれ、その数が増加しています。



JALスカイミュージアムでの「特別表彰式」
Special Award Ceremony at JAL SKY MUSEUM

✈ World Children's Haiku Contest

The World Children's Haiku Contest aims to promote mutual understanding and international exchange among children around the world by spreading the joy of composing haiku, fostering their sensitivity, and deepening their understanding of the Japanese culture that created haiku. The contest is held biennially for children aged 15 years and under and participants are requested to send their Haiku and a drawing depicting a scene from the Haiku. Prize winning works were published in an anthology titled "Haiku by World Children." This picture book is written in three languages; the local language, English and Japanese in order to share the works with readers around the world.

* Haiku; The Japanese poem written in 5-7-5 syllables is referred to a haiku, while Haiku refers to the three line poem written in the local language.

*Participating regions to date

Ireland, the United States, United Arab Emirates, Armenia, Angola, the United Kingdom, Italy, India, Indonesia, Ukraine, Nepal, Bangladesh, East Asia(China,Hong Kong,Taiwan,Korea), Fiji, Philippines, Finland, Bhutan, Brazil, France, Bulgaria, Vietnam, Venezuela, Peru, Poland, Portugal, Malesia, Mexico, Mozambique, Maldives, Morocco, Mongolia, Latvia, Lithuania, Romania, Russia

*Japanese, English, Chinese (Simplified, Traditional), French, German, Italian, Korean, Russian, Spanish, Turkish, Portuguese, Finnish, Lithuanian, Dutch, Indonesian, Thai, Vietnamese

* Please see P21 for activities from 1989 through 2024.

The 18th World Children's Haiku Contest Theme "Family"

During the 18th World Children's Contest under the theme "Family," contests were held in 60 locations from 2023 to 2024, and we received 2,615 wonderful works in Japan and 19,373 works from around the world.

* Theme of the 18th World Children's Contest 2023- 2024 "Family"

Period	Japan contest June 1, 2023 - September 30, 2023 World contests October 1, 2023 - January 15, 2024
Theme	Family
Sponsorship	Japan Airlines Co., Ltd.
Cooperation	Haiku International Association
Support	Ministry of Foreign Affairs, Agency for Cultural Affairs, Japan Foundation, UNICEF Japan Committee, and other partner organizations

The 18th World Children's Haiku Contest was held in 46 countries and regions with the cooperation of embassies and consulates of various countries, JAL branches, and commissioned organizations, and entries in 28 languages were received. 3 works were selected from the grand prize winners in the summer of 2024 and the authors were invited to Tokyo for the award ceremony. All winning entries are available on the "World Children's Haiku Contest Special Site" on the JAL Foundation website.

Other Projects

As part of its haiku business, the Foundation sponsored prizes for the 27th Haiku Koshien held in Matsuyama in August, and displayed a banner featuring the winning entries of the World Children's Haiku Contest, postcards, and a copy of the book "Haiku by World Children". In November, the Foundation sponsored prizes for the 29th Kusamakura International Haiku Contest to support haiku production by young people and to publicize the Foundation's haiku project. The winning entries were exhibited at the Matsuyama Shiki Memorial Museum to inform Matsuyama citizens and tourists about the Haiku Contest.

As a new initiative, we are working with schools and organizations overseas to promote haiku. For example, the Japanese Cultural Center in Seattle, Washington, set up a Hike Corner on Culture Day, where past contest winners and "Haiku by World Children" were displayed and haiku writing events were held. Also, at a Montessori nursery school in Arizona, "Haiku by World Children" was read to the children, and the nursery school children learned and created haiku. Activities derived from these contests have emerged and are increasing in number.

● 作品集『地球歳時記』のあゆみ History of Anthology "Haiku By World Children"



第1回 (1990)
花と緑
Green Growing Things



第2回 (1992)
飛ぶもの
Things which Fly



第3回 (1994)
空または海
The Sky or Sea



第4回 (1996)
食べ物
Food



第5回 (1998)
自由テーマ
Open Theme



第6回 (2001)
自由テーマ
Open Theme



第7回 (2002)
私の国の魅力
Attractiveness of my Country



第8回 (2004)
水
Water



第9回 (2006)
家
Home



第10回 (2008)
風
Wing



第11回 (2010)
学校
School



第12回 (2012)
お祭り
Festivals



第13回 (2014)
夢
Dreams



第14回 (2016)
朝
Morning



第15回 (2018)
いきもの
Living Things



第17回 (2022)
まち Towns

→ 大気観測

JAL財団は、地球温暖化をもたらす大気変動のメカニズム解明のため、民間航空機を使用した大気観測研究に参画している。

地球環境に関しては、温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、森林破壊や砂漠化など、さまざまな問題が取り上げられているが、本プロジェクトの対象とする地球大気の観測は、近年、社会的な関心が一層高まりつつある「地球温暖化問題」をターゲットとするもので、産業革命以降の人類活動が深く関わっている二酸化炭素(CO₂)等の温室効果ガスの大気中濃度を広範囲、高頻度で観測し、その変動と循環のメカニズムを解明するための基礎データを取得することを主たる目的としている。

大気観測の歴史

民間航空機による上空大気の採取および分析を日本で初めて行ったのは、東北大学であり、1979年に当時の東亜国内航空(現:日本航空)の協力により、仙台＝福岡間において、月1回の手動ポンプによる温室効果ガスの観測を開始したとされる。また、1984年には、日本航空の協力により、東京＝シドニー、東京＝アンカレッジ間で、上空大気の採取による観測、分析を実施した。

その後、1990年の日航財団(現:JAL財団)の設立を機に、気象研究所、日本航空、およびJAL財団は、運輸省(現:国土交通省)の後援のもと、試行錯誤の末、自動大気サンプリング装置(ASE)を開発して、在来ボーイング747型機に搭載し、1993年以降、月2回のペースで、豪州＝日本間の上空大気の採取による観測、分析を実施した。

この1993年に開始されたこの観測体制については、日本航空の事業計画と機材計画に伴い新しい観測体制が必要になる。2005年には日本航空の在来型ボーイング747型機の退役を機に、研究者から要請のあった既存の大気サンプリング装置(ASE)の改良と新たな「CO₂濃度連続測定装置」(CME)の開発が進められ、これらの新しい測定装置はボーイング747-400型機2機(現在は退役済み)、またボーイング777-200型機3機に搭載された。このボーイング777型機も今後順次退役が予定されており、2020年度に国家予算の支援を受けて、ボーイング787型機に搭載する事業が開始されることとなった。この事業においては、機材に合わせた観測測定装置の開発を行い、該当局の認定を受けることを前提に、ボーイング787型機に順次搭載され、継続的な大気観測事業が行われる計画となっている。

ボーイング777型機に搭載された2つの観測装置



CME: CO₂濃度連続測定装置

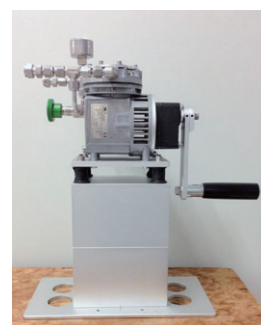


ASE: 自動大気採取装置, for CO₂, CH₄, CO, N₂O, SF₆, H₂, isotopes

自動観測装置外観
Continuous Measuring Equipment,
Automatic Sampling Equipment Outlook



手動観測風景
Manual Sampling



手動観測装置本体
Manual Sampling Equipment

CONTRAIL PROJECT 2024年度の活動

この事業は、平成5年(1993年)の開始からすでに32年を経ているが、このように長期にわたる航空機による大気観測の取り組みは世界に類がなく、その研究成果とともに国内外から高く評価されている。

この事業においては、産官学各界の有識者から助言を得るために、「航空機による地球観測推進委員会」を設置しており、JAL財団はその事務局を務めている。

※1991年～2024年の活動実績は、P22を参照。

CONTRAIL PROJECT 開始以来の観測実績

◎大気サンプリング装置

CO₂ CO CH₄ N₂O H₂ SF₆同位体の採取、測定
ASE (Automatic Air Sampling Equipment)
MSE (Manual Air Sampling Equipment)

総計 581回 シドニー路線中心 / 月1～2回

CY05	1回	CY06	20回	CY07	18回
CY08	23回	CY09	25回	CY10	20回
CY11	21回	CY12	31回	CY13	35回
CY14	30回	CY15	34回	CY16	24回
CY17	23回	CY18	43回	CY19	36回
CY20	49回	CY21	45回	CY22	47回
CY23	25回	CY24	31回		

◎二酸化炭素自動連続測定装置

CME (Continuous CO₂ Measuring Equipment)

総計 29,497回

CY05	59回	CY06	707回	CY07	1,547回
CY08	1,069回	CY09	1,260回	CY10	1,145回
CY11	1,275回	CY12	1,372回	CY13	1,744回
CY14	1,885回	CY15	2,464回	CY16	2,327回
CY17	1,915回	CY18	2,017回	CY19	2,158回
CY20	1,299回	CY21	1,336回	CY22	1,600回
CY23	1,589回	CY24	729回		

✈ Atmospheric Observation Project

To better understand the mechanism of atmospheric change, which said to be the cause of global warming, the JAL Foundation has been participating in atmospheric observation research using commercial aircraft.

Various issues affecting the global environment have been pointed out such as global warming, depletion of the ozone layer, acid rain, deforestation and desertification. The atmospheric observation project focuses on global warming, which has captured ever growing public attention in recent years. The primary aim of the project is to extensively and frequently monitor the atmospheric concentration of greenhouse gases such as carbon dioxide (CO₂), which have been closely associated with human activities since the industrial revolution, and to collect basic data to help clarify the mechanism of atmospheric change and the circulation of greenhouse gases.

History of Atmospheric Observation

Atmospheric air was collected for analysis in Japan by commercial aircraft for the first time in 1979, when Tohoku University began monthly observations of greenhouse gases collected with a manually-operated pump on flights between Sendai and Fukuoka with the cooperation of Toa Domestic Airlines (currently Japan Airlines). In 1984, they conducted observations and analysis of atmospheric air collected on flights between Tokyo and Sydney and between Tokyo and Anchorage with the cooperation of Japan Airlines.

With the establishment of Nikko Foundation (currently the JAL Foundation) in 1990, the Meteorological Research Institute, Japan Airlines and JAL Foundation, with the support of the Ministry of Transportation (currently the Ministry of Land, Infrastructure, Transportation and Tourism), developed Automatic Air Sampling Equipment (ASE), installed it on JAL's classic Boeing 747, and since 1993 have conducted observations and analysis of atmospheric air collected on commercial flights between Japan and Australia on a twice-monthly basis.

Over time, it became necessary to build a new observation system to suit Japan Airline's business plan and fleet plan. In 2005, following the retirement of JAL's classic Boeing 747, the ASE was improved and Continuous Automatic CO₂ Measuring Equipment (CME) was developed at the request of researchers. The new measuring equipment were installed on two Boeing 747-400 aircraft (both decommissioned at present) and three Boeing 777-200 aircraft. With the retirement of JAL's Boeing 777, a project will begin in fiscal year 2020 to install the equipment on JAL Boeing 787 with budget support of the Japanese government. In this project, air sampling equipment to suit the Boeing 787 will be developed and progressively installed onboard, pending approval from the authorities, and thus, the air observation project will continue.

CONTRAIL PROJECT Activities in FY2024

32years have passed since the launch of the CONTRAIL Project in 1993. With no other atmospheric observation project in the world using aircraft having been conducted for such a long time, the project and research findings have been highly acclaimed both domestically and internationally.

In order to obtain advice from leading experts in the industry, government, and academia, the Committee on Promoting the Earth Observation by Commercial Flights was formed, in which the JAL Foundation serves as the Secretariat.

* Please refer to P23 for activity results from 1990 to 2024.

Total Legs Since Start of Observations

◎ ASE (Air Sampling Equipment)

CO₂ CO CH₄ N₂O H₂ SF₆ Gathering and Measurement of isotope

ASE (Automatic Air Sampling Equipment)

MSE (Manual Air Sampling Equipment)

Accumulated total 581: Mainly Sydney route/once- twice a month

CY05 1leg	CY06 20 legs	CY07 18 legs
CY08 23 legs	CY09 25 legs	CY10 20 legs
CY11 21 legs	CY12 31 legs	CY13 35 legs
CY14 30 legs	CY15 34 legs	CY16 24 legs
CY17 23 legs	CY18 43 legs	CY19 36 legs
CY20 49 legs	CY21 45 legs	CY22 47 legs
CY23 25 legs	CY24 31 legs	

◎ CME (Continuous Automatic CO₂ Measuring Equipment)

Accumulated total 29,497 legs

CY05 59 legs	CY06 707 legs	CY07 1,547 legs
CY08 1,069 legs	CY09 1,260 legs	CY10 1,145 legs
CY11 1,275 legs	CY12 1,372 legs	CY13 1,744 legs
CY14 1,885 legs	CY15 2,464 legs	CY16 2,327 legs
CY17 1,915 legs	CY18 2,017 legs	CY19 2,158 legs
CY20 1,299 legs	CY21 1,336 legs	CY22 1,600 legs
CY23 1,589 legs	CY24 729 legs	



SKYWARD 2020 年 1 月号 巻頭
SKYWARD New Year Greeting 2020



SKYWARD 2020 年 1 月号 明日の空へ SDGs ~ JAL の取り組み
SKYWARD Jan 2020 CONTRAIL Introduction

✈ 地球人育成プログラム

地球規模で考え行動できる「地球人」の育成を目的として、第一線で活躍する講師による「地球人講座」の開催やインターンシップ事業など国際交流と相互理解の促進に資する事業に取り組んでいます。

地球人講座

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、2003年度より第一線で活躍する講師による小中高校生を対象とした「地球人講座」を国内外の各地で開催している。

2025年2月に「地球人講座 in アメリカ・JAXA宇宙飛行士オンライン講演」を実施しました。星出彰彦宇宙飛行士を講師に迎え「宇宙への挑戦と夢」というテーマのもと講演いただきました。講演は、アメリカ・カナダ・メキシコ・ブラジル・アルゼンチンなどの国々と日本をZOOMウェビナーで結びリアルタイムで配信しました。日本人学校や補習校、現地校の小中学生とそのご家族、約1400名に視聴いただきました。講演中には参加者がチャット欄に感想や質問を書き込み、星出宇宙飛行士が答えるといったリアルタイムの双方向コミュニケーションが展開されました。

第34回「地球人講座 in アメリカ」 JAXA宇宙飛行士 星出彰彦さん 講演

開催日	2025年2月24日
開催地	アメリカ・カナダ・メキシコ・ブラジル・アルゼンチンをオンラインで結んで開催
テーマ	「宇宙への挑戦と夢」
聴講者等	アメリカ大陸にお住いの小中学生とそのご家族の約1400名

共催 日本航空、協力 宇宙航空研究開発機構 JAXA。

※2003年～2024年の開催実績は、P26を参照。

インターンシップ事業

【外国人学生に対する研修プログラム】

JAL財団では、国際交流事業の一環として海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を研修生として招聘してきた。1990年以降シドニー、北京、上海、ソウル、台北、ハノイから計40名の研修生を受け入れている。

研修生にはJAL財団のスタッフとして日本式ビジネスを実体験してもらうことで、日本語能力のさらなる向上と日本文化に対する見識の深化を促すとともに、JALスカラシッププログラムの運営補助業務を担う機会を提供し、参加する海外学生および国内学生達との交流を通じて、相互の国際理解促進に資することを期待している。

また、JALグループで実施している折り紙ヒコーキ教室などの社会貢献活動への参加を通じて、自身も社会の一員であることを認識し、自主性と協調性を育み責任ある行動を取ることができる豊かな地球人として成長する基盤を提供する。

さらに、研修の最後には日本に関するレポートの作成と発表の場を設け、インターンシップ研修の集大成としている。

2024年度も昨年度に続き、ベトナムはハノイからの研修生の受け入れを行った。

ベトナムからのインターンシップ研修生の続けての受け入れで、従来のプログラムに加え、高校生との国際交流会の実施、他法人での研修を行うなど新たな取り組みも継続している。

※研修生受入れ実績は、P28を参照。

東日本鉄道文化財団研修生受け入れ事業

JAL財団では、東日本鉄道文化財団との間で、相互に研修プログラムの提供を行う事業提携を行っている。2007年度より、日本航空の協力のもと、東日本鉄道文化財団で研修を行っているベトナム、モンゴル等のアジア諸国の鉄道会社の若手社員に対して、主に安全をテーマとする研修プログラムを提供している。運輸事業に携わるものにとって安全は共通の命題であるが、航空会社の安全に関する取り組みの現場を実際に見学することで、安全に対する意識の向上に資することを目的としている。

2024年度は、6カ国から8名の研修生（タイ、インドネシア、モンゴル、ベトナム、マレーシア、フィリピン）を受け入れた。2024年度までの受け入れ数は、133名に達した。



第31回「地球人講座 in 島根」

→ Program for Fostering Globally-Minded Citizens

The JAL Foundation has been engaged in activities that contribute to the promotion of international exchange and mutual understanding, such as Lectures for Global Citizens by experts in their specialized fields and an internship program for international students.

Lectures for Globally Minded Citizens

In February 2025, "Lecture for Global Citizens - JAXA Astronaut Online Lecture" was held. Astronaut HOSHIDE Akihiko was invited to give a lecture under the theme of "Challenges and Dreams for Space". The lecture was delivered in real time via ZOOM webinar connecting Japan and many countries such as U.S.A. , Canada, Mexico, Brazil and Argentina. Approximately 1,400 elementary and junior high school students from Japanese schools, supplementary schools, and local schools, as well as their families, viewed the webinar. During the lecture, participants posted their impressions and questions in the chat box, and Astronaut Hoshide answered them, creating a real-time interactive communication.

The 34th " Lecture for Global Citizens in America " by JAXA Astronaut HOSHIDE Akihiko

Date	February 24, 2025
Venue	The United States, Canada, Mexico, Brazil, Argentina, and other countries in the Americas, etc.
Theme	"Challenges and Dreams for Space"
Audience	Approximately 1,400 elementary and junior high school students and their families from many countries from the continent of America.

Co-sponsored by Japan Airlines, in cooperation with the Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA)

*For the results of lectures held from 2003 to 2024, see p.27.

Internship Project

[Training Program for International Students]

As part of our international exchange program, the JAL Foundation hosts university students studying the Japanese language and culture at colleges and universities overseas. Since 1990, we have hosted a total of 40 trainees from Sydney, Beijing, Shanghai, Seoul, Taipei and Hanoi.

By providing the students with opportunities to experience Japanese-style business as the JAL Foundation staff, we hope they will further improve their Japanese language skills, deepen their understanding of Japanese culture, and support us in running the JAL Scholarship Program as well as promote international understanding through interactions with international and Japanese students.

In addition, through participation in corporate citizenship activities of the JAL Group, such as Origami Hikoki kyoshitsu, we provide them with a foundation for growth as a global citizen, who can act independently, cooperatively and responsibly.

At the end of training, the students write a report on Japan under any theme they choose.

In the FY24, we continued to accept trainees from Hanoi, Vietnam, following last year's practice.

With the continued acceptance of internship trainees from Vietnam, we are also maintaining new initiatives such as holding international exchange meetings with high school students and conducting initial training with other organizations, in addition to the traditional program.

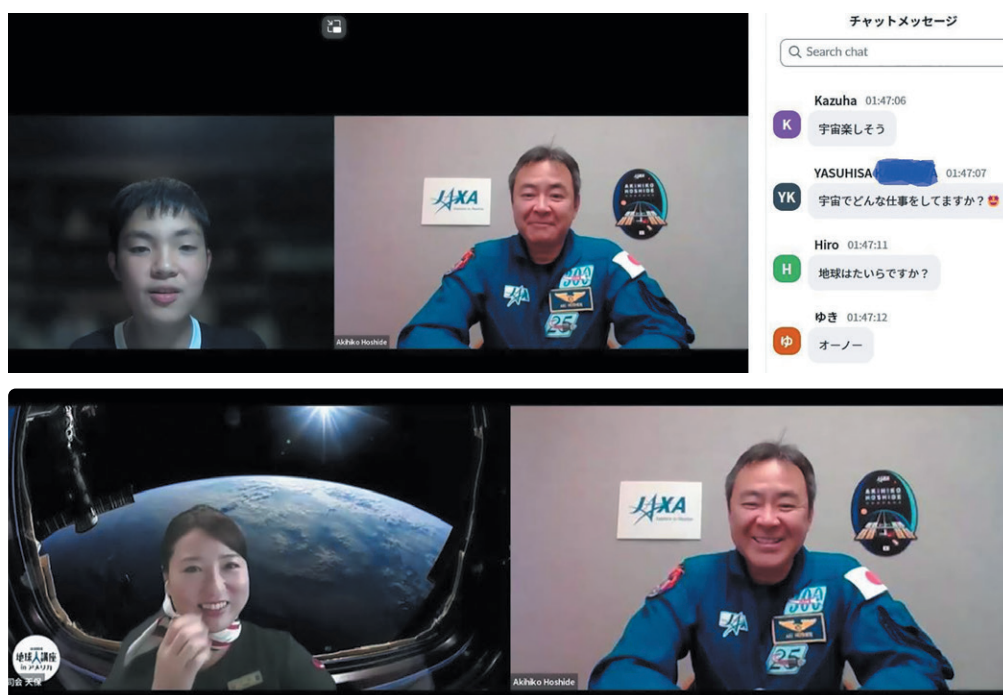
*Please refer to P31 for results of the Internship Program.

Traineeship Program by East Japan Railway Culture Foundation

The JAL Foundation has tied up with East Japan Railway Culture Foundation to mutually support our respective study programs. Since fiscal year 2007, the JAL Foundation has been conducting a training program on safety for young railway company staff from Vietnam, Mongolia, and other Asian countries as part of East Japan Railway Culture Foundation's traineeship program, with the cooperation of Japan Airlines. As safety is of paramount importance to all those engaged in the transportation industry, this program aims to raise safety awareness by observing frontline safety activities of an airline.

In FY2024 there were 8 participants from 6 countries. Thailand, Indonesia, Mongolia, Vietnam, Malaysia and the Philippines.

During the fifteen years since its start in FY2007 to FY2024, a total of 133 trainees have taken part in the program.



活動実績
Project History
Fiscal year
1975-2024

目次 / Contents

JALスカラシッププログラム/アジアフォーラム JAL Scholarship Program / Asia Forum	16
世界こどもハイクコンテスト World Children's Haiku Contest	20
大気観測 Atmospheric Observation Project	22
「空の日」中学生主要空港派遣事業 Sky Day Study Tours to Major Airports for Junior High School Students	26
地球人講座 Series of Lectures for Globally-Minded Citizens	26
インターンシップ事業 Internship Activities	28
東日本鉄道文化財団研修生受入れ事業 Fellowship Program by East Japan Railway Culture Foundation	28
その他の活動 Other Activities	28
研究開発センター Research and Development Center	30

➤ JALスカラシッププログラム/アジアフォーラム

目的：アジア・オセアニアの大学生を毎夏日本に招き、日本への理解推進、相互理解の促進と将来のアジア・オセアニア地域を担う若者を育成すること。

■ JAL スカラシッププログラム参加人数 (1975-2024)

	国 年	オーストラリア	北京	上海	広州	大連	天津	香港	インド	インドネシア	ソウル	プサン	マレーシア	ミャンマー	ニュージーランド	フィリピン	シンガポール	台北	高雄	タイ	ハノイ	ホーチミンシティ	ラオス	カンボジア	ブラジル	米国	ロサンゼルス	ホノルル	グアム	サイパン	フィンランド	合計
1	1975							6		6			6			6	6															30
2	1976 (春)															6	6			8												20
3	1976 (夏)							6		6			6												6							24
4	1977							6		6			6			6	6			6						4						40
5	1978							6		6			6			6	6			6						6						42
6	1979							5		6			6			6	6			6									2			37
7	1980							6		6			6			6	6			6					2				2	2		42
8	1981							6		6	3		6			6	6			6					4				2	2		47
9	1982							5		5	5		5			5	5			5					2				2	2		41
10	1983	2						5		5	5		5		1	5	5			5					2				2	2		44
11	1984	2						5		5	5		5		1	5	5			5					2				2	1		43
12	1985	2	3	3				5		5	5		4		2	5	5			5					2				2	1		49
13	1986	3	3	2				5		5	5		5		2	5	5			5					2				2	1		50
14	1987	3	3	2				5		5	5		5		2	5	5			5					2				2	1	1	51
15	1988	3	2	2				4		4	4		4		2	4	4			4					2				2	1	1	43
16	1989	3	2	2				4		4	4		4		2	4	4			4					2		2		2	1	1	45
17	1990	3	2	2				4		4	4		4		2	4	4			4					2				2	1	1	43
18	1991	3	2	2				4		4	4		4		2	4	4	4	4	4									2			43
19	1992	3	2	2				4		4	4		4		2	4	4	4	4	4	1											42
20	1993	2	2	2				3		4	3		4		2	4	4	4	4	4	2											40
21	1994	2	2	2				3		4	3		4		2	4	4	4	4	4	2											40
22	1995	3	2	2				4		4	3		4		2	4	4	4	4	4	4											44
23	1996	3	2	2				2		4	3		4		2	4	4	4	4	4	4											42
24	1997	3	2	2				3		4	3		4		2	4	4	4	4	4	4											43
25	1998	3	2	2				2		3	3	1	3		2	3	3	3	3	3	3											36
26	1999	3	2	2				2		3	2	2	3		2	3	3	3	3	3	3											36
27	2000	2	2	2				2		2	2	1	2		1	2	2	2	2	2	2											26
28	2001	3	2	2				2		3	2	2	3		1	3	3	3	3	3	3											35
29	2002	3	2	2				2		3	1	2	3			3	3	3	3	3	3											33
30	2003	3		2						3	2	1	3		1	3	3			3	3											27
31	2004	3	2	2				2		3	2	2	3		2	2	3	4	3	3	2	1										36
32	2005	3	2	2				2		3	2	2	3		2	3	3	3	3	3	1	2										36
33	2006	3	2	2				2		3	2	2	3		2	3	3	3	3	3	2	1										36
34	2007 (夏)	3	2	2				2		3	2	2	3		2	3	3	3	3	3	1	2										36
35	2007 (秋)		2	2							2							2		1	1											10
36	2008 (夏)	2	1	1				2		2	1	1	2		2	2	2	2	2	2	2											24
37	2008 (秋)		2	2				1			1	1			1		1	2		1		1										13
38	2009 (夏)	2	1	1				1		2	2	1	2		2	2	2	2	2	2	2					1						25
39	2009 (秋)	1	2	2				1			1	1			1		1	2		1		1										14
40	2010 (夏)	1	1	1				1			2	1			1	1	2	1		1	1	1										15
41	2010 (秋)	1	1	1				1			2		1		1		1	1		1	1	1										13
42	2011		1	1	1	1		1			2	1	1					1	1	1	1	1	1	1								16
43	2012		1	1	1	1	1	1			2	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1								19
44	2013	1	1		1	1	1	1	1	1	2	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1								21
45	2014	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2		1			1	1	1	1	1	1			1	1					1		22
46	2015	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1						1		24
47	2016	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2		1	1	1	1	1	1	1	1	1						1		26
48	2017	1	1	1	1	1	1	2	2	1	2	1	1	2		1	1	1	1	1	1	1	1	1								26
49	2018	1	1	1	1	1	1	2	2	1	2	1		2			1	1	1	1	1	1	1	1						1		25
50	2019	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2			1	1	1	1	1	1	1	1						1	1	26
51	2022		4	3		1			3		5	1						6														23
52	2023		1	1				1	2	1	2	1		1		1	1	2		1	1	1		1						1		19
53	2024		1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1						1		24
	計	83	72	70	10	11	9	145	18	154	126	33	154	10	51	153	160	85	10	157	58	20	10	11	24	16	3	26	22	5	1	1707

✈ JAL Scholarship Program / Asia Forum)

Purpose: University students from Asia and Oceania are invited to Japan every summer to deepen their understanding of Japan, promote mutual understanding and foster the younger generation who will assume future leadership roles in the region.

■ JAL Scholarship Participants (1975-2024)

	Country Region	Year	China							Korea		Myanmar	New Zealand	Philippines	Taiwan		Thailand	Vietnam		Laos	Cambodia	Brazil	USA							Finland	Total	
			Australia	- Beijing	- Shanghai	- Guang Zhou	- Dalian	- Tianjin	- Hong Kong	India	Indonesia				- Seoul	- Busan		Malaysia	- Taipei				- Kaohsiung	- Hanoi	- Ho Chi Minh City	USA	- Los Angeles	- Honolulu	- Guam			- Saipan
1	1975							6		6			6		6	6														30		
2	1976 (Spring)													6	6		8													20		
3	1976 (Summer)							6		6			6											6						24		
4	1977							6		6			6		6	6		6						4						40		
5	1978							6		6			6		6	6		6						6						42		
6	1979							5		6			6		6	6		6									2			37		
7	1980							6		6			6		6	6		6				2				2	2			42		
8	1981							6		6	3		6		6	6		6				4				2	2			47		
9	1982							5		5	5		5		5	5		5				2				2	2			41		
10	1983	2						5		5	5		5	1	5	5		5				2				2	2			44		
11	1984	2						5		5	5		5	1	5	5		5				2				2	1			43		
12	1985	2	3	3				5		5	5		4	2	5	5		5				2				2	1			49		
13	1986	3	3	2				5		5	5		5	2	5	5		5				2				2	1			50		
14	1987	3	3	2				5		5	5		5	2	5	5		5				2				2	1	1		51		
15	1988	3	2	2				4		4	4		4	2	4	4		4				2				2	1	1		43		
16	1989	3	2	2				4		4	4		4	2	4	4		4				2			2		2	1	1	45		
17	1990	3	2	2				4		4	4		4	2	4	4		4				2				2	1	1		43		
18	1991	3	2	2				4		4	4		4	2	4	4	4	4									2			43		
19	1992	3	2	2				4		4	4		4	2	4	4	4	4	1											42		
20	1993	2	2	2				3		4	3		4	2	4	4	4	4	2											40		
21	1994	2	2	2				3		4	3		4	2	4	4	4	4	2											40		
22	1995	3	2	2				4		4	3		4	2	4	4	4	4	4											44		
23	1996	3	2	2				2		4	3		4	2	4	4	4	4	4											42		
24	1997	3	2	2				3		4	3		4	2	4	4	4	4	4											43		
25	1998	3	2	2				2		3	3	1	3	2	3	3	3	3	3											36		
26	1999	3	2	2				2		3	2	2	3	2	3	3	3	3	3											36		
27	2000	2	2	2				2		2	2	1	2	1	2	2	2	2	2											26		
28	2001	3	2	2				2		3	2	2	3	1	3	3	3	3	3											35		
29	2002	3	2	2				2		3	1	2	3		3	3	3	3	3											33		
30	2003	3		2						3	2	1	3	1	3	3		3	3											27		
31	2004	3	2	2				2		3	2	2	3	2	2	3	4	3	2	1										36		
32	2005	3	2	2				2		3	2	2	3	2	3	3	3	3	1	2										36		
33	2006	3	2	2				2		3	2	2	3	2	3	3	3	3	2	1										36		
34	2007 (Summer)	3	2	2				2		3	2	2	3	2	3	3	3	3	1	2										36		
35	2007 (Autumn)		2	2							2						2	1	1											10		
36	2008 (Summer)	2	1	1				2		2	1	1	2	2	2	2	2	2	2											24		
37	2008 (Autumn)		2	2				1			1	1		1		1	2	1		1										13		
38	2009 (Summer)	2	1	1				1		2	2	1	2	2	2	2	2	2	2							1				25		
39	2009 (Autumn)	1	2	2				1			1	1		1		1	2	1		1										14		
40	2010 (Summer)	1	1	1				1				2	1		1	1	2	1	1	1										15		
41	2010 (Autumn)	1	1	1				1				2		1		1	1	1	1	1										13		
42	2011		1	1	1	1	1	1			2	1	1				1	1	1	1	1	1	1	1						16		
43	2012		1	1	1	1	1	1			2	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						19		
44	2013	1	1		1	1	1	1	1	1	2	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						21		
45	2014	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1				1		1	22		
46	2015	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1				1			24		
47	2016	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2		1	1	1	1	1	1	1	1				1			26		
48	2017	1	1	1	1	1	1	2	2	1	2	1	1	2		1	1	1	1	1	1	1	1							26		
49	2018	1	1	1	1	1	1	2	2	1	2	1		2			1	1	1	1	1	1	1				1			25		
50	2019	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	2			1	1	1	1	1	1	1				1	1		26		
51	2022		4	3		1			3		5	1				6														23		
52	2023		1	1				1	2	1	2	1		1		1	1	2		1	1	1		1				1		19		
53	2024		1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1				1			24		
	Total	83	72	70	10	11	9	145	18	154	126	33	154	10	51	153	160	85	10	157	58	20	10	11	24	16	3	26	22	5	1	1707

■「アジアフォーラム」開催地とテーマ (1993-2019)

年	場所	テーマ
1	1993	石川
		環境と開発 基調講演:有馬 朗人氏(法政大学教授、前東京大学総長、原子核物理学者、俳人)
2	1994	石川
		観光開発と文化創造 基調講演:デニス・オルーク氏(オーストラリア映像作家)
3	1995	熊本
		ひとつの社会、多様な文化 基調講演:崔 洋一氏(映画監督)
4	1996	石川
		国境を越える文化—音楽を中心に— 基調講演:カズコ・ホーキ氏(作家、パフォーマンスアーティスト)
5	1997	宮城
		アジア型都市の出現と地方都市交流 基調講演:西澤 潤一氏(東北大学名誉教授、(財)半導体研究振興会研究所長)
6	1998	石川
		アジアは一つか?—私にとってのアジア、あなたにとってのアジアとは— 基調講演:川勝 平太氏(国際日本文化研究センター教授) ロナルド・P・トビ氏(イリノイ大学教授)
7	1999	京都
		アジアの共生を考える—世界の中のアジア、アジアの中の日本 基調講演:松本 健一氏(麗澤大学教授)
8	2000	東京
		21世紀の地球人に求められるもの—経験、学修、そして対話 基調講演:明石 康氏(前国連事務次長、日本予防外交センター会長)
9	2001	大分
		語ろう、探そう、「日本の魅力」 基調講演:坂本 和一氏(立命館アジア太平洋大学学長) 特別講演:平松 守彦氏(大分県知事)
10	2002	京都
		どこから生れる日本の魅力 学長講演:長田 豊臣氏(立命館大学学長) 基調講演:鈴木 みどり氏(立命館大学教授)
11	2003	京都
		見つめよう、確かめよう、日本の魅力—真の豊かさとは—
12	2004	石川
		地球人とは—21世紀型社会の実現をめざして— 基調講演:王 鉄橋氏(中国鄭州大学教授)
13	2005	石川
		グローバリゼーション—21世紀のアジア、私達のできること— 基調講演:住 明正氏(東京大学教授)
14	2006	石川
		真に豊かな社会とは—共に生き、共に考え、アジア・オセアニアの未来を拓くために— 基調講演:山本 一力氏(作家)
15	2007	石川
		未来への挑戦 基調講演:井上 久美氏(前上智大学教授)
16	2008	石川
		20年後の世界 (20年後の金沢)
17	2009	石川
		国際協力 (アジア・オセアニアの学生が探る『金沢の魅力と課題』)
18	2010	石川
		観光と異文化理解 「わがグループが推奨する金沢市異文化体験観光スポット 現状ベストワン、将来性ベストワン」
19	2011	石川
		災害にうち克つ〜石川で考える、私たち若者ができる事
20	2012	石川
		活気あふれる日本を再現するために 〜石川からの提言〜
21	2013	石川
		活気あふれる日本を再現するために 〜10年後の石川・金沢のあるべき姿を考える〜
22	2014	石川
		石川・金沢の魅力を探る
23	2015	石川
		石川・金沢の魅力を探る
24	2016	石川
		石川・金沢のさらなる発展のために
25	2017	石川
		考えよう!アジアの環境、世界の環境 〜今、私たちが環境のためにできること〜石川県金沢市を事例として
26	2018	石川
		SDGs-持続可能な社会を目指して。 考えよう、今の社会のために、そして将来世代のために私たちができること。
27	2019	石川
		SDGs-持続可能な社会へ 持続可能な社会を目指して。考えよう、今の社会のために、そして将来世代のために私たちができること。

■1993年3月、スカラシッププログラムがダイヤモンド企画大賞(社会貢献部門の審査委員会賞)を受賞。

■ Asia Forum - Venues and Themes (1993-2019)

YEAR	VENUE	Theme
1	1993	ISHIKAWA Environment and Development Keynote Speaker: Dr. ARIMA Akito (Professor, Hosei University; Former President, The University of Tokyo; Nuclear Physicist; Haiku Poet)
2	1994	ISHIKAWA Tourism and Cultural Development in Asia and Oceania Keynote Speaker: Mr. Dennis O'Rourke (Film Maker)
3	1995	KUMAMOTO Emerging Pluralism in Asia and Oceania: Within and Between Nations Keynote Speaker: Mr. SAI Yoichi (Film Director)
4	1996	ISHIKAWA Transnational Popular Culture — Focusing on the Interculturalization of Music — Keynote Speaker: Ms. Kazuko Hohki (Writer, Performance Artist)
5	1997	MIYAGI A New Asian Paradigm for Successful Global Coexistence Keynote Speaker: Prof. NISHIZAWA Junichi (Emeritus Professor, Tohoku University; Director, Semiconductor Research Institute, Semiconductor Research Foundation)
6	1998	ISHIKAWA Coexistence and Diversity: Two Faces of 21st Century Asia — What do I think of Asia? What do you think of Asia? — Keynote Speaker: Prof. KAWAKATSU Heita (Professor, Japan International Culture Research Centre) Prof. Ronald P. Toby (Head Professor, Illinois University)
7	1999	KYOTO Toward Asian Coexistence — Asian within the World, Japan within Asia — Keynote Speaker: Prof. MATSUMOTO Kenichi (Professor, Reitaku University)
8	2000	TOKYO Becoming a Global Citizen in the 21st Century — Experience, Learning and Dialogue — Keynote Speaker: Mr. AKASHI Yasushi (Former Undersecretary General of the United Nations ; Chairman of the Japan Center for Preventative Diplomacy)
9	2001	OITA Come share, come seek 'The Attractiveness of Japan' Keynote Speaker: Ph. D. SAKAMOTO Kazuichi (President, Ritsumeikan Asia Pacific University) Guest Speech: Mr. HIRAMATSU Morihiko (Governor, Oita Prefecture)
10	2002	KYOTO Seek the Origin of the Attractiveness of Japan University President's Address: Ph.D. NAGATA Toyoomi (President, Ritsumeikan University) Keynote Speaker: Prof. SUZUKI Midori (Professor, Ritsumeikan University)
11	2003	KYOTO Let's Verify the Attractiveness of Japan
12	2004	ISHIKAWA What does it mean to be a Globally-Minded Citizen in the 21st century? Keynote Speaker: Mr. Tieqiao Wang (Professor, Zhenzhou University)
13	2005	ISHIKAWA Globalization — 21st century Asia, What can we do? — Keynote Speaker: Dr. SUMI Akimasa (Professor, The University of Tokyo)
14	2006	ISHIKAWA What makes a truly prosperous society? — Co-existence & cooperation for the future of Asia and Oceania — Keynote Speaker: Mr. YAMAMOTO Ichiriki (Author)
15	2007	ISHIKAWA Challenges for the Future Keynote Speaker: Ms. INOUE Kumi (Former professor, Sophia University)
16	2008	ISHIKAWA The world in 20 years - problems and solutions (Kanazawa in 20 years)
17	2009	ISHIKAWA International Cooperation - its achievements and drawbacks (The Attractions and Issues of Kanazawa City)
18	2010	ISHIKAWA Tourism and Cross-cultural Understanding Best one spot for Present Status and Best one spot for Future Potentiality in terms of Cross-Cultural Understanding in Kanazawa
19	2011	ISHIKAWA Overcome Disasters — What the young can do; our ideas from Ishikawa
20	2012	ISHIKAWA Bringing Back a Vibrant Japan — Our proposals from Ishikawa —
21	2013	ISHIKAWA Bringing Back a Vibrant Japan — ISHIKAWA & KANAZAWA IN 2013 —
22	2014	ISHIKAWA Exploring the Charm of Ishikawa Prefecture and Kanazawa
23	2015	ISHIKAWA Exploring the Charm of Ishikawa Prefecture and Kanazawa
24	2016	ISHIKAWA For further development of Ishikawa and Kanazawa
25	2017	ISHIKAWA Let's think about the Asian Environment, World Environment. — What should we do now — In the case of Kanazawa City, Ishikawa Pref.
26	2018	ISHIKAWA SDGs — For achieving the Sustainable Development Goals, let's think what we can do towards the next generation.
27	2019	ISHIKAWA SDGs — For achieving the Sustainable Development Goals, let's think what we can do towards the next generation.

■ The JAL Scholarship Program was awarded 'The Judges Prize of the 1993 Diamond Planning Award' by Diamond Inc. for continued contribution toward students in the Asia Pacific over a 17 year period.

世界こどもハイクコンテスト World Children's Haiku Contest

目的：海外各地域の教育機関などの協力のもと、現地の小中学校教育にハイク（俳句）を取り入れ、ハイク創作の楽しさを広め、ハイクを生み出した日本文化、さらには現在の日本への理解を深めてもらうとともに、文化などの壁を越えた相互理解や交流を促進する。

世界こどもハイクコンテスト World Children's Haiku Contest (1989-2024)

	オランダ Netherlands	ネパール Nepal	モザンビーク Mozambique	モロッコ Morocco	モンゴル Mongolia	メキシコ Mexico	マレーシア Malaysia	リトアニア Lithuania	ラトビア Latvia	ケニア Kenya	イタリア Italy	アイルランド Ireland	インドネシア Indonesia	インド India	ギリシア Greece	ガーナ Ghana	ドイツ Germany	フランス(新カレドニア) France (New Caledonia)	フィンランド Finland	エストニア Estonia	エジプト Egypt	エクアドル Ecuador	デンマーク Denmark	キューバ Cuba	クロアチア Croatia	東アジア(中国、香港、台湾、韓国) East Asia (China,Hong Kong, Taiwan,Korea)	カンボジア Cambodia	カナダ Canada	ブルガリア Bulgaria	ブラジル Brazil	ブータン Bhutan	バングラデシュ Bangladesh	オーストリア Austria	オーストラリア Australia	アンゴラ Angola	アルメニア Armenia	Duration of Contest
第1回 1st	○					○	○			○			○		○		○	○				○				○		○					○				1989-1990
第2回 2nd						○	○							○			○					○				○		○						○			1991-1992
第3回 3rd						○	○										○	○					○			○		○						○			1993-1994
第4回 4th							○						○				○	○					○			○		○						○			1995-1996
第5回 5th						○	○			○			○				○	○					○			○		○						○			1997-1998
第6回 6th						○	○			○			○				○	○								○		○						○			1999-2000
第7回 7th	○					○	○			○			○				○	○					○			○		○									2001-2002
第8回 8th						○	○			○			○				○	○								○		○							○		2003-2004
第9回 9th						○	○			○			○				○	○								○		○							○		2005-2006
第10回 10th						○	○										○	○							○		○		○								2007-2008
第11回 11th					○						○						○	○							○		○		○								2009-2010
第12回 12th					○		○										○	○							○		○	○									2011-2012
第13回 13th		○			○		○		○				○				○	○	○				○			○		○		○		○		○		○	2013-2014
第14回 14th	○				○		○		○			○	○				○	○	○							○		○		○							2015-2016
第15回 15th	○				○		○					○	○				○	○	○		○					○		○		○							2017-2018
第16回 16th	○					○	○					○	○				○	○	○			○				○		○		○					○		2019-2020
第17回 17th	○	○			○		○					○	○			○	○	○	○							○		○		○					○	○	2021-2022
第18回 18th	○				○		○					○	○				○	○	○						○		○		○		○						2023-2024

■1994年11月21日に、「世界こどもハイクコンテスト」が企業メセナ協議会主催のメセナ大賞国際賞を受賞。

世界こどもハイクキャンプ (1990-2006)

	キャンプ開催期間	場 所	参加国数
第 1 回	1990.8.25 ~ 8.28	広島県瀬戸田町 / 大阪花博	16
第 2 回	1992.8.20 ~ 8.23	福島県須賀川市	11
第 3 回	1994.8.2 ~ 8.5	大阪市 / 三重県上野市	12
第 4 回	1996.8.1 ~ 8.6	熊本市	15
第 5 回	1998.7.28 ~ 8.2	長野県小布施町	18
第 6 回	2000.8.7 ~ 8.11	広島市 / 熊野町 / 瀬戸田町	10
第 7 回	2002.7.26 ~ 7.31	石川県松任市	15
第 8 回	2004.7.23 ~ 7.28	秋田県雄和町	17
第 9 回	2006.7.25 ~ 8.1	愛媛県松山市	18

※「世界こどもハイクキャンプ」(隔年)は2006年度実施をもって休止

世界こどもハイクキャンプ参加地域

オーストラリア、ブラジル、カナダ、クロアチア、デンマーク、エジプト、イギリス、フランス、ドイツ、ギリシャ、グアム、インド、インドネシア、イタリア、ケニア、マレーシア、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、パラオ、フィリピン、ロシア、シンガポール、スロベニア、スペイン、スウェーデン、タイ、トルコ、アラブ首長国連邦、アメリカ合衆国、東アジア(中国、香港、台湾、韓国)、日本

Purpose: To promote the inclusion of haiku in primary and junior high school curricula, encourage students to enjoy creating haiku, deepen their understanding of modern-day Japan and Japanese culture, from which this poetic art form originated, and promote mutual understanding and human exchanges.

テーマ Theme	収録 『地球歳時記』 Anthology "Haiku by World Children"
合計 Total	25
日本 Japan	○
モルディブ Maldives	○
ベトナム Vietnam	○
アメリカ合衆国(含ハワイ・グアム) USA (including Hawaii, Guam)	○
イギリス United Kingdom	○
アラブ首長国連邦 United Arab Emirates	○
ウクライナ Ukraine	○
トルコ Turkey	○
タイ Thailand	○
スイス Switzerland	○
スウェーデン Sweden	○
スリランカ Sri Lanka	○
スペイン Spain	○
スロベニア Slovenia	○
シンガポール Singapore	○
セネガル Senegal	○
ロシア(ソ連) Russia (Soviet Union)	○
ルーマニア Romania	○
ポルトガル Portugal	○
ポーランド Poland	○
フィリピン Philippines	○
パラオ Palau	○
ノルウェー Norway	○
ニュージーランド New Zealand	○
花と緑 Green Growing Things	第1巻 『地球歳時記'90』 Haiku by Children '90 Vol. 1
飛ぶもの Things Which Fly	第2巻 『地球歳時記'92』 Haiku by Children '92 Vol. 2
空または海 The Sky or Sea	第3巻 『地球歳時記'94』 Haiku by Children '94 Vol. 3
食べもの Food	第4巻 『地球歳時記'96』 Haiku by Children '96 Vol. 4
自由テーマ Open Theme	第5巻 『わいわいハイクBOOK』 Wai Wai Haiku Book Vol. 5
自由テーマ Open Theme	第6巻 『あたらしいうた』 For a New Century Vol. 6
わたしの国の魅力 Attractiveness of My Country	第7巻 『ちきゅうのうた』 Haiku By World Children Vol. 7
水 Water	第8巻 『みずのうた』 Impressions of Water Vol. 8
家 Home	第9巻 『いえのうた』 Impressions of House Vol. 9
風 Wind	第10巻 『かぜのうた』 Impressions of Wind Vol. 10
学校 School	第11巻 『がっこうのうた』 Impressions of School Vol. 11
お祭り Festivals	第12巻 『おまつりのうた』 Impressions of Festivals Vol. 12
夢 Dreams	第13巻 『ゆめのうた』 Impressions of Dreams Vol. 13
朝 Morning	第14巻 『あさのうた』 Impressions of Morning Vol. 14
いきもの Living Things	第15巻 『いきもののうた』 Impressions of Living Things Vol. 15
スポーツ sports	第16巻 『スポーツのうた』 Impressions of Sports Vol. 16
まち Towns	第17回 『まちのうた』 Impressions of Towns Vol. 17
かぞく Family	世界こどもハイクコンテスト 特設ページにて公開 World Children's Haiku Contest Special Page

■ World Children's Haiku Contest receives Grand Mécénat Awards, International Award, from Association for Corporate Support of the Arts on November 21, 1994.

■ World Children's Haiku Camp (1990-2006)

	Camp Duration	Venue	Number of Participating Countries
1st	Aug. 25-28, 1990	Setoda-cho, Hiroshima Prefecture; The Osaka International Gardens and Greenery Exposition	16
2nd	Aug. 20-23, 1992	Sukagawa City, Fukushima Prefecture	11
3rd	Aug. 2-5, 1994	Osaka City, Osaka Prefecture; Ueno City, Mie Prefecture	12
4th	Aug. 1-6, 1996	Kumamoto City, Kumamoto Prefecture	15
5th	Jul. 28-Aug. 2, 1998	Obese-cho, Nagano Prefecture	18
6th	Aug. 7-11, 2000	Hiroshima City; Kumano-cho; Setoda-cho, Hiroshima Prefecture	10
7th	Jul. 26-31, 2002	Matto City, Ishikawa Prefecture	15
8th	Jul. 23-28, 2004	Yuwa Town, Akita Prefecture	17
9th	Jul. 25-Aug. 1, 2006	Matsuyama City, Ehime Prefecture	18

World Children's Haiku Camp - Participating Regions

Australia, Brazil, Canada, Croatia, Denmark, Egypt, United Kingdom, France, Germany, Greece, Guam, India, Indonesia, Italy, Kenya, Malaysia, Mexico, Netherlands, New Zealand, Palau, Philippines, Russia (Soviet Union), Singapore, Slovenia, Spain, Sweden, Thailand, Turkey, United Arab Emirates, USA, East Asia (China, Hong Kong, Taiwan, Korea), Japan

➤ 大気観測 (1991-2024)

事業内容：定期航空便による大気中の温室効果ガスの定常観測
 事業目的：地球温暖化をもたらす大気変動のメカニズム解明
 観測対象：二酸化炭素、メタン等
 観測路線：東南アジア、豪州、中国、欧州、北米路線など
 観測頻度：ASE は毎月2回。CME は、二酸化炭素の連続観測。
 観測地点：ASE によるシドニー → 成田間の任意の12 地点。CME による飛行航路上の連続地点。

年 月	内 容
1 1991.9.	大気観測プロジェクトの発足。
2 1992.1.	採取方法検討のための試験飛行。(外気とエアコン用エアの組成比較)
3 1993.2.	観測用搭載装置 (ASE) の開発を完了。
4 1993.4.	飛行試験の実施。航空局の検査に合格し、定期旅客便での運用承認。
5 1993.4.	ボーイング747型機 (JA8127) による観測第1便を運航。(ケアンズ→成田)
6 1994.7.	ボーイング747機 (JA8131) を改修。観測路線をシドニー→成田間に延長。
7 1994.9.	観測頻度を月2回に拡充。
8 1995.3.	日本航空が「フジテレビジョン賞」を受賞。 受賞理由：地球に優しいJALを目指す全社運動の一環として、上空大気中の温室効果ガスの濃度測定を開始した業績。
9 1995.11.	大気観測プロジェクトが日経地球環境技術賞 (日本経済新聞社主催) を受賞。 受賞理由：地球環境問題に関する調査・研究、対策技術等で優れた成果を挙げた業績。
10 1996.6.	日本航空技術研究所が「気象庁長官表彰」を受賞。 受賞理由：民間航空機に搭載可能な大気採取装置の開発に寄与し、気象業務に貢献した業績。
11 1997.7.	日本航空が、フライト・インターナショナル社から表彰を受賞。
12 1998.1.	NHK「クイズ日本人の質問」でASE がクイズの対象になった。
13 1998.4.	100回目の観測を記録。
14 1998.8.	羽田空港で開催された「天気の不しぎ展」に、大気観測の紹介パネルとASE (初公開) を出展。
15 1999.11.	気象研究所松枝秀和氏が気象学会「堀内賞」を受賞。
16 2000.5.	150回目の観測を記録。
17 2000.6.	日本航空と日航財団が「運輸大臣表彰」を受賞。
18 2001.8.	羽田空港で開催された「わんぱくエコロジー展」に、大気観測の紹介パネルとASE を展示。
19 2001.10.	仙台で開催された「第6回二酸化炭素国際会議」に出展。
20 2001.11	日本航空の50周年を記念して、2001 年11月8日に経団連ホールで開催された「環境シンポジウム」に、大気観測の紹介パネルとASE (初公開) を出展。
21 2002.4.	観測路線をブリスベン→成田間に変更。
22 2002.6.	200回目の観測を記録。
23 2002.8.	朝日新聞に大気観測の紹介記事が掲載された。
24 2002.10.	TBS テレビ「ニュースの森」の中で、大気観測が紹介された。
25 2003.6.	日本経済新聞に大気観測の紹介記事が掲載された。
26 2003.9.	文部科学省の「科学技術振興調整費」による開発作業を正式スタート。
27 2003.11.	新大気観測計画のための委員会の第1回会合として、「航空機による大気組成観測推進委員会第1回委員会」を開催。
28 2003.12.	現行大気観測プロジェクトのための委員会の最終回として、「地球環境観測検討委員会第11 回委員会」を開催。
29 2004.2.	毎日新聞に大気観測の紹介記事が掲載された。
30 2004.3.	サンケイ新聞に掲載された「地球環境問題に対する日航グループの取組みに関する記事」の中で、新大気観測計画が紹介された。
31 2004.5.	フジテレビ、スーパーニュース内の「天気予報」「おしえてイワダス」の中で、新大気観測計画が紹介された。
32 2004.8.	インターネットテレビChannel J の番組「環境フロンランナー」にて、新大気観測計画紹介の放映が開始された。
33 2004.9.	250回目の観測を記録。
34 2005.1.	共同通信社から配信された新大気観測計画の紹介記事が各紙に掲載された。
35 2005.10.	日刊工業新聞1面に新大気観測の紹介記事が掲載された。
36 2005.11.	NHKテレビ首都圏ネットワークで新大気観測の全容について紹介された。 ボーイング747-400 型機による試験観測を開始。 英国科学誌ネイチャーのニュース欄に新大気観測の紹介記事が掲載された。
37 2005.12.	国立環境研究所が初飛行で得られたデータの速報を含め、民間航空機を利用した二酸化炭素観測の成功について記者発表 NHK、日本経済新聞、読売新聞、日刊工業新聞、毎日新聞等に関連内容が放映・掲載された。
38 2006.2.	ボーイング747-400 2 号機目の改修が完了し、試験観測を開始。

➔ Atmospheric Observation Project (1991-2024)

Project Outline: Regular observation of greenhouse gases within the upper atmosphere, using scheduled Japan Airline flights.
 Purpose: The elucidation of the mechanism of change which said to be the cause of global warming.
 Subject of Observation: Carbon dioxide, methane, etc.
 Line of Observation: Southeast Asia, Australia, China, Europe, North American routes, etc.
 Observation Schedule: Twice a month for the ASE. Continuously for the CME.
 Points of Observation: 12 points along the Sydney to Narita route by the ASE. Continuous observation by the CME along flight routes.

Month / Year	Outline
1 Sep. 1991	The Environmental Observation and Monitoring Project was inaugurated.
2 Jan. 1992	Test flight for analysis of appropriate extraction method in order to compare composition of outside and air conditioned air.
3 Feb. 1993	Completed the development and installation of ASE (Automatic Air Sampling Equipment).
4 Apr. 1993	Operated test flight. Passed Aviation Authority Examination and obtained approval to install ASE (Automatic Air Sampling Equipment) on scheduled passenger flights.
5 Apr. 1993	Installed observation device on first flight - Boeing 747 (JA8127) (Cairns - Narita).
6 Jul. 1994	Refitting of (JA8131) Boeing 747 Extended observation route - now Sydney to Narita.
7 Sep. 1994	Project expanded - samples now taken twice a month.
8 Mar. 1995	Japan Airlines received the Fuji TV Award for commencing measurement of the concentration of greenhouse gases in the upper troposphere as part of its company projects aiming to be environmentally aware.
9 Nov. 1995	The Environmental Observation and Monitoring Project received the Nihon Keizai Shimbun Environmental Technology Award, under the auspices of Nihon Keizai Shimbun, for remarkable results achieved in investigation, research and preventative measure application towards environmental issues.
10 Jun. 1996	The Japan Airlines Research and Development Department received a Certificate of Commendation from the Director of the Meteorological Agency for contributions to the development of installable meteorological testing equipment and the meteorological field.
11 Jul. 1997	Japan Airlines received the Flight International Company Award.
12 Jan. 1998	ASE (Automatic Air Sampling Equipment) became the topic of the NHK quiz show, 'Questions of the Japanese'.
13 Apr. 1998	Recorded 100 th observation result.
14 Aug. 1998	Publicly exhibited ASE (Automatic Air Sampling Equipment) for the first time and an introductory panel for the Environmental Observation and Monitoring Project held at the 'Strange Skies' exhibition at Haneda Airport.
15 Nov. 1999	Dr. MATSUEDA Hidekazu, Meteorological Research Institute, received the Meteorological Society of Japan's Horiuchi Award.
16 May. 2000	Recorded 150 th observation result.
17 Jun. 2000	Japan Airlines and JAL Foundation received a Certificate of Commendation from the Minister for Transport.
18 Aug. 2001	A panel presenting the Environmental and Observation Monitoring Project and ASE were put on display at the 'Wanpaku Ecology Exhibition' at Haneda Airport.
19 Oct. 2001	The Environmental and Observation Monitoring Project was introduced at 'The Sixth Carbon Dioxide International Conference' held in Sendai.
20 Nov. 2001	To commemorate the 50 th anniversary of Japan Airlines, the Environmental and Observation Monitoring Project presentation panel and ASE were put on display at the Federation of Economic Organizations.
21 Apr. 2002	Changed observation route from Brisbane to Narita.
22 Jun. 2002	Recorded 200 th observation result.
23 Aug. 2002	An article featuring the Environmental and Observation Monitoring Project appeared in Asahi Shimbun.
24 Oct. 2002	The Environmental and Observation Monitoring Project was featured on TBS TV.
25 Jun. 2003	An article featuring the Environmental and Observation Monitoring Project appeared in Nihon Keizai Shimbun.
26 Sep. 2003	Official start of development operations through the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology's 'Match Fund'.
27 Nov. 2003	The 1 st meeting of the Promotion Committee on Atmospheric Composition Observation through Aircraft.
28 Dec. 2003	The 11 th meeting of the Study Committee on Global Environment Observation.
29 Feb. 2004	An article featuring the Environmental and Observation Monitoring Project appeared in Mainichi Shimbun.
30 Mar. 2004	The New Atmospheric Observation Program appeared in an article of Sankei Shimbun.
31 May. 2004	The New Atmospheric Observation Program was presented on Fuji TV's Super News.
32 Aug. 2004	A presentation of the New Atmospheric Observation Program was broadcasted on internet television Channel J.
33 Sep. 2004	The 250 th observation was recorded.
34 Jan. 2005	A presentation of the New Atmospheric Observation Program was distributed by Kyodo News Service, and carried by several newspapers.
35 Oct. 2005	An article about the New Atmospheric Observation Program reported by Nikkan Kougyo Shimbun appears in various newspapers.
36 Nov. 2005	NHK Television Tokyo Network presents a full report on the New Atmospheric Observation Program. Boeing 747 test observation flights begin. An article about the New Atmospheric Observation Program appears in the news column of the English science magazine 'Nature'.
37 Dec. 2005	National Institute of Environmental Studies announces the success of carbon dioxide observations using commercial aircraft, including up-to-date data from the maiden test flight at a press conference. The related news and articles broadcasted by NHK, and published by Nihon Keizai Shimbun, Yomiuri Shimbun, Nikkan Kougyo Shimbun and Mainichi Shimbun.
38 Feb. 2006	Modification of Boeing 747-400 aircraft was completed and test observations began.

39	2006.3.	ボーイング777-200 型機初号機の改修を完了。
40	2006.9.	ボーイング777 型機の観測結果を踏まえ、「航空機による大気組成観測推進委員会第7回委員会(最終回)」を開催。
41	2006.11.	ボーイング777 2号機、3号機の改修が終了し、当初予定されていた5機全てに測器搭載が可能となった。 NHK「おはよう日本」で新大気観測の現状が紹介された。
42	2007.2.	観測データの利用に関する、「第1回航空機による大気観測データ利用小委員会」を開催。
43	2007.3.	上記小委員会の上部委員会として、観測データの有効利用推進および観測プラットフォームの維持・管理と発展を目的とした、「航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第1回委員会」を開催。
44	2007.6.	ジャムコ社が新大気観測装置の開発に関し「日本航空技術協会 会長賞」を受賞した。
45	2007.12.	「航空機による地球環境観測推進委員会」委員長の中澤東北大教授が島津科学技術振興財団より「島津賞」を受賞した。
46	2008.2.	気象研究所の澤主任研究員が観測機器の開発と新観測解析手法の確立に関し「気象研究所所長表彰」を授与された。
47	2008.3.	「航空機による地球環境観測推進委員会 第2回委員会」を開催。
48	2008.9.	CONTRAIL プロジェクト関連の論文が「J. Atmos. Oceanic Technol.」「J. Geophys. Res.」2誌に掲載。 国立環境研究所の町田敏暢氏が環境問題への積極的な広報活動や研究所活動の発展に対する貢献により「NIES賞」を受賞した。
49	2009.3.	「航空機による地球環境観測推進委員会 第3回委員会」を開催。
50	2009.4.	2007.10. に特許出願中のASE/CME に公開特許公報。
51	2009.11.	「航空機による地球環境観測推進委員会」委員長の中澤東北大教授が地球温暖化メカニズム解明研究にいち早く取り組み、長年尽力した功績で紫綬褒章を受章。
52	2010.2.	CONTRAIL プロジェクトの累計観測回数が5,000 回を突破。
53	2010.3.	「航空機による地球環境観測推進委員会 第4回委員会」を開催。
54	2011.2.	毎日新聞にて、新大気観測により判明した南北半球間のCO ₂ 循環が掲載された。
55	2011.3.	TBSテレビ「ウィークエンドウェザー」にて、日本航空ボーイング747-400 型機の退役とともに、CO ₂ 等大気観測がボーイング777-200 で継続されると紹介された。
56	2011.6.	「航空機による地球環境観測推進委員会 第5回委員会」を開催。欧州でCARIBICプロジェクトを牽引する、マックス・プランク化学研究所のCarl A.M. Brenninkmeijer博士を招聘し、同委員会にて招待講演が実施された。
57	2012.3.	「第2期 航空機による地球環境観測推進委員会 第1回委員会」を開催。
58	2012.7.	CONTRAILプロジェクトの特別塗装機(JA707J)によるフライトが開始される旨、日本航空、日航財団、国立環境研究所、気象庁気象研究所、ジャムコの5者共同にてプレスリリースされた。 テレビ東京「ニュースモーニングサテライト」の「ネタのたね」にて、新塗装機材のデビューと、プロジェクト概要が紹介され、同内容が毎日新聞にも掲載された。
59	2012.11.	奈良女子大学理学部公開講座「地球温暖化研究の最前線を語る」が開催された。国立環境研究所地球環境研究センター大気・海洋モニタリング推進室長町田敏暢氏(CONTRAILプロジェクトリーダー)と同大学理学部教授林田佐智子氏により、プロジェクトの活動やプロジェクトにより得られた観測データに基づく研究成果が一般市民にわかりやすく紹介された。
60	2012.12.	BS ジャパン「地球★アステク」「#90驚きの地球温暖化観測技術！」にてCONTRAILが取材され、観測による研究成果が放映された。
61	2013.1.	朝日新聞にて、CONTRAILの観測データにより、二酸化炭素の大気循環メカニズムの一端が解明されていることが紹介された。
62	2013.3.	「第2期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第2回委員会」開催。
63	2013.6.	公益財団法人 日立環境財団主催 第40回環境賞の環境大臣賞/優秀賞を受賞。
64	2013.7.	NHK BSI「スペースシップアースの未来」にて CONTRAIL が取材され、研究成果などが放送された。
65	2013.10.	毎日新聞社 朝鮮日報社 主催 第19回日韓国際環境賞を受賞。
66	2014.3.	「第2期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第3回委員会」開催。
67	2015.1.	地球環境研究協力の報告会を開催。
68	2015.3.	「第2期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第4回委員会」開催。
69	2015.4.	第24回フジサンケイグループ 地球環境大賞/審査委員特別賞を受賞。
70	2016.3.	「第2期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第5回委員会」開催。
71	2017.4.	「第3期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第1回委員会」開催。
72	2017.12.	地球温暖化防止活動 環境大臣表彰「国際貢献部門」受賞。
73	2018.3.	「第3期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第2回委員会」開催。
74	2019.3.	「第3期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第3回委員会」開催。
75	2019.3.	日本オープンイノベーション大賞「環境大臣賞」受賞。
76	2021.3.	「第3期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第5回委員会」開催。
77	2022.10.	「第4期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第1回委員会」開催。
78	2023.3.	「第4期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第2回委員会」開催。
79	2024.3.	「第4期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第3回委員会」開催。
80	2025.3.	「第4期 航空機による地球環境観測推進委員会(本委員会)第4回委員会」開催。

39	Mar. 2006	Modification of first Boeing 777-200 aircraft was completed.
40	Sep. 2006	Based on the results of Boeing 777 observations, the 7 th Committee on Promoting the Observation to Investigate Atmospheric Composition by Scheduled Flights (final meeting) was formed.
41	Nov. 2006	Modification of No. 2 and No. 3 Boeing 777's was completed, and it became possible to install the measuring equipment on the first aircraft. The New Atmospheric Observation Project was presented on NHK's 'Good morning Japan'.
42	Feb. 2007	The 1 st Subcommittee of Data Application for Atmospheric Observation by Airline was established.
43	Mar. 2007	A committee senior to the above-mentioned one, the 1 st meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights (main committee), was formed. Its purpose is to promote the effective use of observation data and ensure maintenance, management and development of the observation platform.
44	Jun. 2007	JAMCO Corporation received a Certificate of Commendation from the Chairman of Japan Aeronautical Engineers' Association for the development of the new environmental observation and monitoring's equipment.
45	Dec. 2007	Professor NAKAZAWA of Tohoku University, Chairman of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights was presented the Shimazu Award from Shimazu Science and Technology Foundation.
46	Feb. 2008	Dr. SAWA of Meteorological Research Institute received a Certificate of Commendation from the Director of the Meteorological Research Institute for the development of observation equipment and establishment of analysis methods for the new observation program.
47	Mar. 2008	The 2 nd meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights was held.
48	Sep. 2008	A paper on the CONTRAIL Project appears in 'J. Atmos. Oceanic. Technol.' and 'J. Geophys. Res.' Dr. MACHIDA of National Institute of Environmental Studies received the NIES Award for public relations about environmental issues and contribution to the development of the institute's activities.
49	Mar. 2009	The 3 rd meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights was held.
50	Apr. 2009	A patent application made in October 2007 for ASE (Automatic Air Sampling Equipment) and CME (Continuous CO ₂ Measuring Equipment) was published in Japanese Published Unexamined Patent Applications.
51	Nov. 2009	Dr. NAKAZAWA Takakiyo Professor of Tohoku University and Chairman of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights was awarded the Purple Ribbon Medal for his long-term achievements in enhancing the understanding of the mechanism of global warming caused by greenhouse gases.
52	Feb. 2010	The number of atmospheric observations under the CONTRAIL Project has exceeded 5,000.
53	Mar. 2010	The 4 th meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights was held.
54	Feb. 2011	An article featuring the Environmental and Observation Monitoring Project, appeared in Mainichi Shimbun. (Carbon dioxide circulates from the northern hemisphere to the southern hemisphere).
55	Mar. 2011	On TBS TV "Weekend Weather", the observation system of greenhouse gases by JAL is reported to be continued, using Boeing 777-200 aircraft due to the retirement of the Boeing 747-400 aircraft.
56	Jun. 2011	The 5 th meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights was held. the JAL Foundation invited Dr. Carl A.M. Brenninkmeijer from the Max Planck Institute for Chemistry 'who is leading the CARIBIC Project in Europe' to this committee meeting as the main guest speaker.
57	Mar. 2012	The 1 st meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / the Second Stage was formed.
58	Jul. 2012	A Press Release was made jointly by Japan Airlines, the JAL Foundation, National Institute for Environmental Studies, and Meteorological Research Institute regarding the launch of JAL Air-Observation Jet with Special [CONTRAIL Project] Logo. (Registration number JA707J) TV Tokyo's "Morning Satellite" reported the Project outline and the debut of this aircraft. Mainichi Shimbun also covered the press release and the Project.
59	Nov. 2012	Nara Women's University Faculty of Science held an open lecture titled "Talk on the frontline of the global warming research". Dr. MACHIDA Toshinobu, head of Office for Atmospheric and Oceanic Monitoring, Center for Global Environmental Research, National Institute for Environmental Studies, also leader of the CONTRAIL Project, and Professor HAYASHIDA Sachiko of Nara Women's University introduced the activities of the Project and research achievements based on data obtained through the Project in easy to understand terms for the general public.
60	Dec. 2012	The CONTRAIL Project and its research outcomes were featured in the B.S. Japan "Chikyu-Asuteku – episode 90: Amazing technologies advance in observing greenhouse gases".
61	Jan. 2013	Asahi Shimbun featured the CONTRAIL Project quoting that its monitoring data contributes to partly revealing the circulation mechanism of carbon dioxide gases.
62	Mar. 2013	The 2 nd meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / the Second Stage was held.
63	Jun. 2013	The CONTRAIL Project team received the Environment Minister's Award, the highest award in the 40 th Environmental Awards.
64	Jul. 2013	The CONTRAIL Project and its research outcomes were featured in NHK BS1 "The Future of the Spaceship Earth".
65	Oct. 2013	The CONTRAIL Project team received the 19 th Japan-S. Korea Environmental Award.
66	Mar. 2014	The 3 rd meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Second Stage was held.
67	Jan. 2015	A report meeting of global environment research collaboration was held.
68	Mar. 2015	The 4 th meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Second Stage was held.
69	Apr. 2015	The project was awarded the 24 th Fuji Sankei Group Earth Environment Prize.
70	Mar. 2016	The 5 th meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Second Stage was held.
71	Apr. 2017	The 1 st meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Third Stage was held.
72	Dec 2017	The project was award Minister of Environment's Commendation for Global Warming Prevention Activity in International Contribution Category.
73	Mar. 2018	The 2 nd meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Third Stage was held.
74	Mar. 2019	The 3 rd meeting of the Committee on Promoting the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Third Stage was held.
75	Mar. 2019	The CONTRAIL Project team received the Ministry of Environment Prize at Japan Open Innovation Award.
76	Mar. 2021	The 4 th meeting of the Committee on Promotion the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Third Stage was held.
77	Oct. 2022	The 1 st meeting of the Committee on Promotion the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Fourth Stage was held.
78	Mar. 2023	The 2 nd meeting of the Committee on Promotion the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Fourth Stage was held.
79	Mar. 2024	The 3 rd meeting of the Committee on Promotion the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Fourth Stage was held.
80	Mar. 2025	The 4 th meeting of the Committee on Promotion the Earth Environment Observation by Scheduled Flights / The Fourth Stage was held.

➔「空の日」中学生主要空港派遣事業 (1994-2019)

	実施年月日	派遣地区	中学生人数	派遣先
1	1994.8.30 - 9.05	成田	8	欧州 (パリ、フランクフルト)
	1994.8.30 - 9.05	中部	6	米国 (ワシントン、アトランタ)
	1994.8.30 - 9.04	関西	7	東南アジア (ジャカルタ、シンガポール)
2	1995.8.27 - 9.02	成田	8	欧州 (ロンドン、アムステルダム)
	1995.8.25 - 8.31	兵庫	8	米国 (ロサンゼルス、シカゴ)
3	1996.8.26 - 9.01	成田	8	欧州 (パリ、ミュンヘン)
	1996.8.25 - 9.01	阪神	8	米国 (ニューヨーク、サンフランシスコ)
4	1997.8.25 - 8.31	成田	8	欧州 (パリ、ロンドン)
	1997.8.24 - 8.31	神戸	8	米国 (ニューヨーク、シカゴ)
5	1998.8.19 - 8.21	新潟	5	国内 (大阪、東京)
	1998.8.23 - 8.29	成田	8	米国 (ニューヨーク、シカゴ)
6	1999.8.18 - 8.20	関西	5	国内 (大阪、東京)
	1999.8.22 - 8.28	成田	8	米国 (ニューヨーク、シカゴ)
7	2000.7.30 - 8.05	成田、千歳	12	米国 (ニューヨーク、シカゴ)
8	2001.7.29 - 8.04	成田、石川県	8	米国 (ニューヨーク、シカゴ)
9	2002.7.24 - 7.27	全国8空港地区	28	国内 (羽田)、アジア (香港)
10	2003.7.23 - 7.25	全国7空港地区	14	国内 (羽田)
	2003.7.27 - 8.01	全国3空港地区	11*	米国 (ロサンゼルス)
11	2004.7.27 - 7.29	全国14空港地区	27	国内 (羽田)
	2004.8.04 - 8.09	全国3空港地区	10	米国 (シアトル、サンフランシスコ)
12	2005.7.25 - 7.30	全国3空港地区	10	米国 (ロサンゼルス)
	2005.8.03 - 8.05	全国12空港地区	24	国内 (中部)
13	2006.7.25 - 7.27	全国12空港地区	24*	国内 (羽田)
	2006.8.01 - 8.06	全国3空港地区	10	米国 (シアトル、サンフランシスコ)
14	2007.7.23 - 7.28	全国3空港地区	10	米国 (シアトル、サンフランシスコ)
	2007.8.01 - 8.03	全国12空港地区	24*	国内 (中部)
15	2008.7.28 - 7.30	全国11空港地区	22	国内 (羽田)
	2008.8.04 - 8.09	全国3空港地区	11*	米国 (シアトル、サンフランシスコ)
16	2009.7.27 - 8.01	全国6空港地区	12*	米国 (シアトル、サンフランシスコ)
	2009.8.05 - 8.07	全国10空港地区	20	国内 (中部)
17	2010.7.26 - 7.31	全国3空港地区	8*	米国 (シアトル、サンフランシスコ)
18	2011.7.25 - 7.30	成田	5	カナダ (バンクーバー)、米国 (シアトル、ロサンゼルス)
19	2012.8.21 - 8.26	成田	6	カナダ (バンクーバー)、米国 (シアトル、ロサンゼルス)
20	2013.7.30 - 8.04	成田	6	カナダ (バンクーバー)、米国 (シアトル、ロサンゼルス)
21	2014.7.29 - 8.03	成田	6	米国 (シアトル・フェニックス・ロサンゼルス)
22	2015.7.27 - 8.01	成田	5	米国 (シアトル・フェニックス・ロサンゼルス)
23	2016.7.25 - 7.30	成田	6	米国 (シアトル・フェニックス・ロサンゼルス)
24	2017.7.24 - 7.29	成田	6	米国 (シアトル・フェニックス・ロサンゼルス)
25	2018.7.23 - 7.28	成田	6	米国 (シアトル・フェニックス・ロサンゼルス)
26	2019.7.22 - 7.27	成田	6	米国 (シアトル・フェニックス・ロサンゼルス)
合計			432	

*絵画コンテスト「空の日」賞入賞者1~2名含む。

➔ 地球人講座 (2003-2024)

時期	開催地	内容
2003.8.23	東京	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長
2004.2.28	沖縄	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長
2004.8.16	与論島	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長
2004.9.20	上海	「知っていますか、あなたの地球を」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長 「日本の有人宇宙活動の現状と展望」 講師：若田 光一氏 JAXA宇宙飛行士
2004.9.22	北京	「知っていますか、あなたの地球を」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長 「日本の有人宇宙活動の現状と展望」 講師：若田 光一氏 JAXA宇宙飛行士
2004.11.27	熊本	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長
2005.2	東京	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長
2005.7.25	与論島	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長
2005.12.4	香港	「宇宙からの贈りもの」 講師：毛利 衛氏 宇宙飛行士・日本科学未来館館長
2005.12.6	広州	「宇宙からの贈りもの」 講師：毛利 衛氏 宇宙飛行士・日本科学未来館館長
2005.12.10	東京	「野鳥とわたしたち」 講師：市田 則孝氏 バードライフアジア代表
2005.12.17	長崎	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長
2007.3.10	仙台	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長 「音の飛行機」 講師：山田 一郎氏 空港環境整備協会理事
2008.3.22	高松	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長 「音の飛行機のお話」 講師：山田 一郎氏 空港環境整備協会理事
2008.10.11	松山	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長 「音の飛行機のお話」 講師：山田 一郎氏 空港環境整備協会理事
2009.12.11	大分	「地球って何だろう」 講師：坂田 俊文氏 (財) 地球科学技術総合推進機構理事長 「音の飛行機のお話」 講師：山田 一郎氏 空港環境整備協会理事
2011.10.28	サンフランシスコ	「国際宇宙ステーション長期滞在飛行に参加して」 講師：若田 光一氏 JAXA宇宙飛行士
2013.1.22	高松	「宇宙・人・夢をつなぐ」 講師：山崎 直子氏 宇宙飛行士
2013.12.23	北九州	「君も宇宙へ行こう！」 講師：古川 聡氏 JAXA宇宙飛行士
2014.11.26	郡山	「宇宙・人・夢をつなぐ」 講師：山崎 直子氏 宇宙飛行士
2016.2.8	デリー	「有人宇宙活動の現状と展望」 講師：若田 光一氏 JAXA宇宙飛行士
2017.2.24	シドニー	「宇宙へおいでよ」 「持続可能な宇宙への協働」 「アジア太平洋地域における宇宙飛行士の国際協力」 講師：野口 聡一氏 JAXA宇宙飛行士
2017.8.5	島根	「宇宙で気づいた大切なこと」 講師：油井 亀美也氏 JAXA宇宙飛行士
2017.11.16-17	ロンドン	「宇宙においてよ」 ～宇宙時代を生きる～ “Unity and Strength by Embracing Differences” 講師：野口 聡一氏 JAXA宇宙飛行士
2018.9.24	札幌	「国際宇宙ステーションでの任務と生活」 講師：大西 卓哉氏 JAXA宇宙飛行士
2020.1.26	熊本	「国際宇宙ステーションでの活動の様子と宇宙での経験」 講師：大西 卓哉氏 JAXA宇宙飛行士
2020.2.21-22	ホノルル	「宇宙で気づいた大切なこと」 「My stay on the international Space Station」 講師：油井 亀美也氏 JAXA宇宙飛行士
2021.2.6	帯広	「国際宇宙ステーションでの活動の様子と宇宙での経験」 講師：古川 聡氏 JAXA宇宙飛行士
2021.2.17	シンガポール・タイ	「宇宙に暮らす」 講師：金井 宣茂氏 JAXA宇宙飛行士
2022.1.23	サンフランシスコ	「宇宙開発と人類の未来」 講師：油井 亀美也氏 JAXA宇宙飛行士
2022.11.19	島根	「生活に役立っている宇宙技術と宇宙開発最前線」 講師：宮里 光憲氏 JAXA 特任担当役
2023.2.12	アジア	「ISSでの国境を越えたチームワークと最新の宇宙開発」 講師：金井 宣茂氏 JAXA宇宙飛行士
2024.2.25	ヨーロッパ	「夢・探求心・思いやり～宇宙飛行士を目指すみなさんへ～」 講師：若田 光一 JAXA 特別参与 宇宙飛行士
2025.2.24	アメリカ	「宇宙への挑戦と夢」 講師：星出彰彦 JAXA宇宙飛行士

✈ Sky Day Study Tours to Major Airports for Junior High School Students (1994-2019)

	Project Administration	Number of Students	Destination
1	1994. 8.30 – 9.05	8	Europe (Paris, Frankfurt)
	1994. 8.30 – 9.05	6	USA (Washington, Atlanta)
	1994. 8.30 – 9.04	7	South East Asia (Jakarta, Singapore)
2	1995. 8.27 – 9.02	8	Europe (London, Amsterdam)
	1995. 8.25 – 8.31	8	USA (Los Angeles, Chicago)
3	1996. 8.26 – 9.01	8	Europe (Paris, Munich)
	1996. 8.25 – 9.01	8	USA (New York, San Francisco)
4	1997. 8.25 – 8.31	8	Europe (Paris, London)
	1997. 8.24 – 8.31	8	USA (New York, Chicago)
5	1998. 8.19 – 8.21	5	Japan (Osaka, Tokyo)
	1998. 8.23 – 8.29	8	USA (New York, Chicago)
6	1999. 8.18 – 8.20	5	Japan (Osaka, Tokyo)
	1999. 8.22 – 8.28	8	USA (New York, Chicago)
7	2000. 7.30 – 8.05	12	USA (New York, Chicago)
8	2001. 7.29 – 8.04	8	USA (New York, Chicago)
9	2002. 7.24 – 7.27	28	Japan (Haneda) Asia (Hong Kong)
10	2003. 7.23 – 7.25	14	Japan (Haneda)
	2003. 7.27 – 8.01	11*	USA (Los Angeles)
11	2004. 7.27 – 7.29	27	Japan (Haneda)
	2004. 8.04 – 8.09	10	USA (Seattle, San Francisco)
12	2005. 7.25 – 7.30	10	USA (Los Angeles)
	2005. 8.03 – 8.05	24	Japan (Chubu)
13	2006. 7.25 – 7.27	24*	Japan (Haneda)
	2006. 8.01 – 8.06	10	USA (Seattle, San Francisco)
14	2007. 7.23 – 7.28	10	USA (Seattle, San Francisco)
	2007. 8.01 – 8.03	24*	Japan (Chubu)
15	2008. 7.28 – 7.30	22	Japan (Haneda)
	2008. 8.04 – 8.09	11*	USA (Seattle, San Francisco)
16	2009. 7.27 – 8.01	12*	USA (Seattle, San Francisco)
	2009. 8.05 – 8.07	20	Japan (Chubu)
17	2010. 7.26 – 7.31	8*	USA (Seattle, San Francisco)
18	2011. 7.25 – 7.30	5	Canada (Vancouver) USA (Seattle, Los Angeles)
19	2012. 8.21 – 8.26	6	Canada (Vancouver) USA (Seattle, Los Angeles)
20	2013. 7.30 – 8.04	6	Canada (Vancouver) USA (Seattle, Los Angeles)
21	2014. 7.29 – 8.03	6	USA(Seattle, Phoenix, Los Angeles)
22	2015. 7.27 – 8.01	5	USA(Seattle, Phoenix, Los Angeles)
23	2016. 7.25 – 7.30	6	USA(Seattle, Phoenix, Los Angeles)
24	2017. 7.24 – 7.29	6	USA(Seattle, Phoenix, Los Angeles)
25	2018. 7.23 – 7.28	6	USA(Seattle, Phoenix, Los Angeles)
26	2019. 7.22 – 7.27	6	USA(Seattle, Phoenix, Los Angeles)
Total		432	

* Including 'Sky Day' painting contest winners.

✈ Series of Lectures for Globally-Minded Citizens (2003-2024)

Period	Hosted by	Outline
Aug. 23, 2003	Tokyo	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation
Feb. 28, 2004	Okinawa	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation
Aug. 16, 2004	Yoron	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation
Sep. 20, 2004	Shanghai	"Do you really understand your planet: EARTH ? " Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation "Current Status of Japanese Manned Space Flight and Future Expectations" Dr. WAKATA Koichi, Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Sep. 22, 2004	Beijing	"Do you really understand your planet: EARTH ? " Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation "Current Status of Japanese Manned Space Flight and Future Expectations" Dr. WAKATA Koichi, Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Nov. 27, 2004	Kumamoto	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation
Feb. 2005	Tokyo	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation
Jul. 25, 2005	Yoron	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation
Dec. 4, 2005	Hong Kong	"Gifts from Space" Dr. MOHRI Mamoru, Astronaut
Dec. 6, 2005	Guangzhou	"Gifts from Space" Dr. MOHRI Mamoru, Astronaut
Dec. 11, 2005	Tokyo	"Wild Birds and Man" Mr. ICHIDA Noritaka, Bird Life Asia representative
Dec. 17, 2005	Nagasaki	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation
Mar. 10, 2007	Sendai	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation "Story of Aircraft and Sound" Mr. YAMADA Ichiro, Director of Airport Environment Improvement Foundation
Mar. 22, 2008	Takamatsu	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation "Story of Aircraft and Sound" Mr. YAMADA Ichiro, Director of Airport Environment Improvement Foundation "Captain's Aviation Class" JAL captain
Oct. 11, 2008	Matsuyama	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation "Story of Aircraft and Sound" Mr. YAMADA Ichiro, Director of Airport Environment Improvement Foundation "Captain's Aviation Class" JAL captain
Dec. 11, 2009	Oita	"What is the Earth" Dr. SAKATA Toshibumi, The Advanced Earth Science and Technology Organisation "Story of Aircraft and Sound" Mr. YAMADA Ichiro, Director of Airport Environment Improvement Foundation
Oct. 28, 2011	San Francisco	"Stories From Space : International Space Station Mission" Dr. WAKATA Koichi, Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Jan. 22, 2013	Takamatsu	"Bridging space, humans and dreams" Ms. YAMAZAKI Naoko, Astronaut
Dec. 23, 2013	Kitakyushu	"Space is inviting you" Dr. FURUKAWA Satoshi, Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Nov. 26, 2014	Koriyama	"Bridging space, humans and dreams" Ms. YAMAZAKI Naoko, Astronaut
Feb. 08, 2016	Delhi	"Current Status of Manned Space Flight and Future Expectations" Dr. WAKATA Koichi, Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Feb. 24, 2017	Sydney	"Welcome to space" "Working Together Towards Sustainable Space" "International cooperation of astronauts in Asia Pacific Region" Mr. NOGUCHI Soichi, Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Aug. 05, 2017	Shimane	"Important things I learned in the Space" Mr. YUI Kimiya, Astronaut, JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Nov. 16-17, 2017	London	"Welcome to space ~ Living the Space Age" "Unity and Strength by Embracing Differences" Mr. NOGUCHI Soichi, Astronaut, JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Sep. 24, 2018	Sapporo	"Mission and life in International Space Station(ISS)" Mr. ONISHI Takuya, Astronaut, JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Jan. 26, 2020	Kumamoto	"Mission and Life in International Space Station" Mr. ONISHI Takuya Astronaut, JAXA(Japan Aerospace Exploration Agency)
Feb. 21-22, 2020	Honolulu	"Important Things I Noticed in Space" "My stay on International Space Station" Mr. YUI Kimiya Astronaut, JAXA(Japan Aerospace Exploration Agency)
Feb. 6, 2021	Obihiro	"Mission and Life in International Space Station" Mr. FURUKAWA Satoshi, Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency) participated online
Feb. 17, 2021	Singapore / Thai	"Life in Outer Space" Mr. KANAI Norishige, Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency) participated online
Jan. 23, 2022	San Francisco	"Space Development and the Future of Humanity" Mr. YUI Kimiya, Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Nov. 19, 2022	Shimane	"Space technology useful in daily life and the forefront of space development" Mr. MIYAZATO Mitsunori, Specially Appointed Officer JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Feb. 12, 2023	Asia	"Cross-border teamwork and the latest space development on the ISS " Mr. KANAI Norishige, Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Feb. 25, 2024	Europe	"Dream, Quest, Compassion - To all aspiring astronauts" Dr. WAKATA Koichi Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)
Feb. 24, 2025	Americas	"Challenges and Dreams for Space" Mr. HOSHIDE Hidehiko Astronaut JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)

➤ インターンシップ事業 (1990-2024)

	外国人学生							日本人学生	総計
	シドニー	北京	上海	ソウル	台湾	ハノイ	合計		
1990	1						1		1
1991	1						1		1
1992	1						1		1
1993	1						1		1
1994	0						0		0
1995	2						2		2
1996	0						0		0
1997	2						2		2
1998	1						1		1
1999	1						1		1
2000	1						1		1
2001	1						1		1
2002	1						1		1
2003	1						1		1
2004	1	1	1				3		3
2005	1	1	1				3		3
2006	1	1		1			3		3
2007		1		1			2		2
2008	1	1		1			3		3
2009		1					1	2	3
2010		1					1	2	3
2011		1					1	2	3
2012		1					1		1
2013		1					1		1
2014					1		1		1
2015		1					1		1
2016					1		1		1
2017		1					1		1
2018		1					1		1
2023						1	1		1
2024						1	1		1
累計	18	13	2	3	2	2	40	6	46

※基準日：受入開始日 単位：人
※2019、2020、2021、2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により受入れ中止

➤ 東日本鉄道文化財団研修生受入れ事業 (2007-2024)

	インドネシア	マレーシア	モンゴル	タイ	ベトナム	ミャンマー	フィリピン	合計
2007. 9.21	2	2	2	2	2	0	0	10
2009. 9.17	3	0	2	2	3	0	0	10
2010. 9. 6	2	2	1	0	2	0	0	7
2012. 1.25	1	2	1	2	2	0	0	8
2012.11.14	2	0	1	1	2	0	0	6
2013.10.18	2	0	1	3	2	0	0	8
2014.11.14	2	1	2	2	2	2	0	11
2015.11.14	2	2	1	2	1	2	0	10
2016.11.11	1	0	2	2	1	1	1	8
2017. 9.21	1	2	1	1	2	1	2	10
2018. 9.28	2	3	2	1	1	1	1	11
2019. 9.27	2	2	2	2	1	1	0	10
2022. 9.28	2	1	1	2	1	0	1	8
2023. 9.20	2	1	1	2	1	0	1	8
2024. 9. 2	2	2	1	1	1	0	1	8
累計	28	20	21	25	24	8	7	133

※2008年度は、東日本鉄道文化財団職員10名を対象に実施。
※2020・2021 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により東日本鉄道文化財団「フェロシップ研修」中止。

➤ その他の活動 (1991-2006)

時 期	内 容
1991. 10.12	アジアフォーラム(東京) テーマ:「21世紀の日本とアジアを考える」 記念講演 遠藤 周作氏(作家)
1991. 12.10 ~ 12.12	第1回世界航空文明デザイン会議(東京) テーマ:「航空が文明社会の発展と創造に果たす役割」 基調講演 平山 郁夫氏(東京芸術大学学長)
1992. 8.23 ~ 8.26	キュレーターズ・セミナー'92(北海道苫小牧)
1993. 7.8 ~ 7.11	キュレーターズ・セミナー'93(北海道ニセコ)
1993. 7.15	アート21フォーラム(東京) テーマ:「南北軸の異文化交流は、21 世紀の新しい芸術観を産むか」
1994. 11.9 ~ 11.10	アート・フォーラム'94(東京) テーマ:「水辺文化としての建築に見るアジアの伝統と現代」
1995. 11.17 ~ 11.18	アジアアートフォーラム'95(東京) テーマ:「アジアの絵画—伝統から見た現代性」
1996. 11.26 ~ 11.27	アートフォーラム'96(東京) テーマ:「アジアの文字と書—その過去・現在・未来」
1998. 9.24	「航空文明と航空医学」特別講演会(東京) 講師:シルビオ・フィンケルシュタイン博士(前国際民間航空機構(ICAO)航空医学部門部長)
2003. 10.4 ~ 10.5	環境シンポジウム2003 千葉会議
2004. 9.26	環境シンポジウム2004 千葉会議
2005. 9.13	イブニングセミナー「アメリカ人研究者の見た日本 コンビニはニッポンの元気の素」 講師:ギャヴィン・ホライトロー氏
2005. 11.4	イブニングセミナー「JAZZで社会貢献!」
2006. 1.30	イブニングセミナー「20万部突破のビジネス書はこうして生まれた企画ヒットの舞台裏」 講師:斎藤 茂一氏 SHUU研究所主任研究員
2006. 4.11	イブニングセミナー「フランス人研究者の見た日本」 講師:ギブール・ドラモット氏
2006. 11.10	イブニングセミナー「変容する地球大気(現象とメカニズム)」 講師:小川 利紘氏 東京大学名誉教授

✈ Internship Activities (1990-2024)

Fiscal Year (Apr. to Mar.)	Overseas Students							Japanese Students	Total
	Sydney	Beijing	Shanghai	Seoul	Taiwan	Hanoi	Total		
1990	1						1		1
1991	1						1		1
1992	1						1		1
1993	1						1		1
1994	0						0		0
1995	2						2		2
1996	0						0		0
1997	2						2		2
1998	1						1		1
1999	1						1		1
2000	1						1		1
2001	1						1		1
2002	1						1		1
2003	1						1		1
2004	1	1	1				3		3
2005	1	1	1				3		3
2006	1	1		1			3		3
2007		1		1			2		2
2008	1	1		1			3		3
2009		1					1	2	3
2010		1					1	2	3
2011		1					1	2	3
2012		1					1		1
2013		1					1		1
2014					1		1		1
2015		1					1		1
2016					1		1		1
2017		1					1		1
2018		1					1		1
2023						1	1		1
2024						1	1		1
Total	18	13	2	3	2	2	40	6	46

*In 2019, 2020, 2021, 2022, the program of Internship Activities was canceled due to the COVID-19 pandemic.

✈ Fellowship Program by East Japan Railway Culture Foundation (2007-2024)

	Indonesia	Malaysia	Mongolia	Thailand	Vietnam	Myanmar	Philippines	Total
2007. 9.21	2	2	2	2	2	0	0	10
2009. 9.17	3	0	2	2	3	0	0	10
2010. 9. 6	2	2	1	0	2	0	0	7
2012. 1.25	1	2	1	2	2	0	0	8
2012. 11.14	2	0	1	1	2	0	0	6
2013. 10.18	2	0	1	3	2	0	0	8
2014. 11.14	2	1	2	2	2	2	0	11
2015. 11.14	2	2	1	2	1	2	0	10
2016. 11.11	1	0	2	2	1	1	1	8
2017. 9.21	1	2	1	1	2	1	2	10
2018. 9.28	2	3	2	1	1	1	1	11
2019. 9.27	2	2	2	2	1	1	0	10
2022. 9.28	2	1	1	2	1	0	1	8
2023. 9.20	2	1	1	2	1	0	1	8
2024. 9. 2	2	2	1	1	1	0	1	8
Total	28	20	21	25	24	8	7	133

*In 2008, the program was conducted solely for 10 staff members of East Japan Railway Culture Foundation.

*In 2020, 2021, the program of East Japan Railway Culture Foundation was canceled due to the COVID-19 pandemic.

✈ Other Activities (1991-2006)

Period	Outline
Oct. 12, 1991	Asia Forum '91 (Tokyo) Theme: Relations Between Japan and Asia Toward the 21st Century Commemorative Speech: Mr. ENDO Shusaku
Dec. 10 - 12, 1991	The 1st World Design Conference on the New Global Age on Aviation (Tokyo) Theme: The Role of Aviation to Contribute to the Progress of Society Keynote Speech: Mr. HIRAYAMA Ikuo, President of the Tokyo National University of Fine Arts and Music
Aug. 23 - 26, 1992	The Curators Seminar '92 (Tomakomai, Hokkaido)
Jul. 8 - 11, 1993	The Curators Seminar '93 (Niseko, Hokkaido)
Jul. 15, 1993	Art 21 Forum (Tokyo) Theme: The Mutual Exchange of Different Cultures Between 'North' and 'South
Nov. 9 - 10, 1994	Art Forum '94 (Tokyo) Theme: Waterside Culture in Asia as seen by its Architecture and Modernity
Nov. 17 - 18, 1995	Asia Art Forum '95 (Tokyo) Theme: Asian Paintings - Viewing Modernity Through Tradition
Nov. 26 - 27, 1996	Art Forum '96 (Tokyo) Theme: Asia Lettering and Calligraphy: the Past, Present and Future
Sep. 24, 1998	Special public lecture on Aviation Medicine and its Contribution to the New Global Age of Aviation (Tokyo) Lecturer: Dr. Silvio Finkelstein, former Head of the Aviation Medicine Department of the International Civil Aviation Organization (ICAO)
Oct. 4 - 5, 2003	Environmental Symposium 2003, Chiba Conference
Sep. 26, 2004	Environmental Symposium 2004, Chiba Conference
Sep. 13, 2005	Evening Seminars "Convenience Stores are the Source of Japan's Energy from the Perspective of an American Researcher" Lecturer: Mr. Gavin Whitelaw
Nov. 4, 2005	Evening Seminars "Contribute to Society with Jazz!"
Jan. 30, 2006	Evening Seminars "How Business Book Best Sellers were Born, Behind the Scenes of Project Successes" Lecturer: Mr. SAITO Shigekazu Senior Researcher of SHUU Research Center
Apr. 11, 2006	Evening Seminars "Japan Viewed by French Researchers" Lecturer: Ms. Guibourg Delamotte
Nov. 10, 2006	Evening Seminars "Transformation of the Earth's Atmosphere (the Phenomenon and the Mechanisms)" Lecturer: Dr. OGAWA Toshihiro, Professor Emeritus, University of Tokyo

➔ 研究開発センター

目的：調査・研究ならびにその成果を実現するための事業の一環として設立
 設立：1996年7月に設立され、2010年5月、事務局への機能移管により廃止

内 容			期 間 ・ 対 象
1 人材育成 (*)	国内の大学や短期大学へ教授・講師の派遣（航空工学、航空機運用・整備、観光事業論、航空実務、CS*顧客満足 など）	1999～2001 年度	累計17 校
		2002 年度	4校
		2003 年度	4校
		2004 年度	4校
	大学生や短大生を対象にサービス業研修	1997～2001 年度	累計17 校
		2004 年度	4校
2 共同調査・研究	相手先	・日本航空（株）	1996～2002 年度
		・（財）日本航空協会	1996～1998 年度
		・日本航空（株）	1997 年度
		・日本航空（株）	1998～1999 年度
		・日本航空（株）	1998 年度
		・全国地域航空システム推進協議会	1999 年度
		・日本航空（株）	1999～2000 年度
		・（財）日本航空協会	1999～2006 年度
		・（社）資源協会 地球科学技術推進機（科学技術庁直属の社団法人）	2000～2001 年度
		・全国地域航空システム推進協議会	2000 年度
		・国土交通省 総合政策局	2001 年度
		・熊本県観光推進協議会	2001 年度
		・日本航空（株）	2001 年度
		・鹿児島県	2001 年度
		・国土交通省 新潟運輸局 秋田県観光課	2002 年度
		・国土交通省 航空局	2002 年度
		・運輸政策研究機構	2002 年度
		・運輸政策研究機構	2003 年度
		・国土技術政策総合研究所	2003 年度
		・文部科学省 海洋地球課	2003～2005 年度
		・国土交通省 航空局	2003 年度
		・静岡県 空港企画室	2003 年度
		・国土交通省 観光地域振興課	2004 年度
		・国土交通省 航空局	2004 年度
		・静岡県 空港企画室	2004 年度
		・国土技術政策総合研究所	2005 年度
		・国土交通省 航空局	2005 年度
		・国土交通省 航空局	2005 年度
		・岡山県 企画振興部	2005 年度
		・国土交通省 航空局	2006 年度
		・国土技術政策総合研究所	2006 年度
		・岡山県 企画振興部	2006 年度
		・天草エアライン	2006 年度
		・国土交通省 航空局	2007 年度
3 広報発信	財団ホームページ	1996.5.	・ホームページの開設 www.jal-foundation.or.jp/
		1995～2001 年度	「航空文明」として発行
		2004.3.	「新・航空文明」としてホームページ上で復刊
		2004 年度	第2号～第6号発行
		2005 年度	第7号～第8号発行
		2006 年度	第9号発行
	機関紙「新・航空文明」の発行	1998.8.	第1号（論文、調査報告、研究ノート、計9件）
		2001.3.	第2号（論文、研究ノート、計9件）
		2004 年度	第1号～第3号発行（ホームページに掲載）
	紀要「航空文明研究」の発行	2005 年度	第4号～第5号発行（ホームページに掲載）
		2006 年度	第6号～第9号発行（ホームページに掲載）
	紀要「日航財団 Bulletin」の発行		
4 大気観測	定期航空機による上層大気中における温室効果ガスの定常観測	24ページ参照	
5 航空輸送分野におけるリサイクル・システムの研究開発	航空貨物輸送等に使用されるポリエチレン・フィルムの回収と再生システムの研究開発	2003.6.	・再生航空貨物用ポリエチレンフィルムの実運用開始
		2005.9.	・再生原料を使用した客室用大型ごみ袋の運用を開始
		2006.9.	・JAL 貨物排出廃プラスチック類の中国の再生原料化を開始
		2007.1.	・JAL再生原料を使用した貨物梱包用下敷きシートの試作品を制作
	機内ごみのリサイクル化検討	2005.4.	・成田空港で機内誌類リサイクルを開始
		2006.5.	・関西空港で機内誌類リサイクルを開始
		2006.10～2007.3.	・成田空港での機内紙ごみリサイクル率向上の施策を関係部門と検討

(*)観光開発や航空の専門家派遣や人材育成業務は2001年8月より日本航空(株) 人事部研究開発室に業務移行。

✈ Research and Development Center

Purpose: To help carry out 'Research and study for the development and projects for its realization'.

Established: July, 1996 Abolished: May, 2010

Purpose		Period / Outline	
1 Human Resource Development (*)	Dispatch of lecturers and professors to universities and junior colleges to teach about aviation engineering, aircraft operation/ maintenance, and the tourism industry.	FY1999 – FY2001	Total of 17 institutions
		FY2002	3 institutions
		FY2003	3 institutions
		FY2004	3 institutions
	Service industry training for university and junior college students.	FY1997 – FY2001	Total: 17 institutions
		FY2004	2 institutions
2 Resource and Entrusted Collaborative Research	FY1996 – 2002	• Formulation of aviation transportation data	
	FY1996 – 1998	• Compilation of 'Civil Aviation Statistics'	
	FY1997	• Research into the CS management of major airlines and proposed future directions for this service management	
	FY1998 – 1999	• Analysis of CS survey results	
	FY1998	• Creation of intranet site on aviation of a major airline	
	FY1999	• Research into 'The Current Situation and Issues of Regional American Airlines'	
	FY1999 – 2000	• Research into the CS schemes of major international airlines	
	FY1999 – 2006	• Supervision of the compilation of 'Civil Aviation Statistics'	
	FY2000 – 2001	• Technical advisor to developmental research of stratospheric platform	
	FY2000	• Research into 'The Current Situation and Issues of Regional European Airlines'	
	FY2001	• Research into construction of Environmental and Atmospheric Observation System using aircraft	
	FY2001	• Kumamoto Travel Survey	
	FY2001	• Production of 'JAL Group 50 years Contrail' Digital History	
	FY2001	• Survey on travel along the Kagoshima route	
	FY2002	• Research into promotion strategies for foreigners use of Akita Airport	
	FY2002	• Research into environmental compatibility of aircraft	
	FY2002	• Research into the use of small-sized planes for international route (interim report)	
	FY2003	• Research into the use of small-sized planes for international route (final report)	
	FY2003	• Research into feasibility of spread of small-sized planes in Japan	
	FY2003 – 2005	• Establishment of global standard for monitoring greenhouse gases using scheduled flights	
	FY2003	• Survey of Korean tourists visiting Japan	
	FY2003	• Fundamental research into regional airline services at Shizuoka Airport	
	FY2004	• Participation in a regional promotion survey through the production and utilization of contents, such as photographs.	
	FY2004	• Surveys of the American Airport Construction Law and subsidization schemes for airport expansion.	
	FY2004	• Surveys for the Shizuoka Airport Regional Airline Research Committee.	
	FY2005	• Research into Small Aircraft Operation and Low Cost Carriers in Asia	
	FY2005	• Research into European Airports with Tight Demand and Supply	
	FY2005	• Research into US Aviation/Airport Revenue Sources, Tax and Fees	
	FY2005	• Basic Research into Regional Air Routes from Okayama Airport	
	FY2006	• Research into the Cooperation Between Major and Regional Airlines	
	FY2006	• Research into Airports and How Airlines use Aircraft	
	FY2006	• Research into the Profitability of a New International Flight Path Based in Okayama	
	FY2006	• Research into the Plans of Amakusa Airline for Future Aircraft	
	FY2007	• Research into the Development of Aviation Network through Use of Regional Jets	
3 Publication	Administration of the JAL Foundation Home Page	May. 1996	• Establishment of the JAL Foundation Home Page www.jal-foundation.or.jp/
	The journal New Global Age of Aviation	FY1995 - 2001	• Publication of 'New Global Age of Aviation'
		Mar. 2004	• Revival on JAL Foundation's homepage
		FY2004	• Publication of Issues of #2 – #6
		FY2005	• Publication of issues #7 and #8
		FY2006	• Publication of issues #9
	Studies of Aviation Civilization (Publication)	Aug. 1998	• First edition (Essays, Investigation Report, Research notes) Total: 9 articles
		Mar. 2001	• Second edition (Essays, Research notes) Total: 9 articles
	JAL Foundation Bulletin (Posted on JAL Foundation homepage)	FY2004	• Publication of Issues of #1 – #3 (Appearing on JAL Foundation homepage)
		FY2005	• Publication of issues #4 and #5 (posted on JAL Foundation homepage)
		FY2006	• Publication of issues #6 - #9
4 Environmental Observation and Monitoring	Measurement of the concentration levels of greenhouse gases in the upper troposphere using specialized equipment installed on regular JAL flights	Please refer to page 25	
5 Research and Development into the Recycling System for Air transport Field	Research and Development of the recycling system for polyethylene film used in air cargo transportation	Jun. 2003	• Commencement of operation of the recycling system.
		Sep. 2005	• Commencement of use of large garbage bags made of recycled materials in the passenger compartment
		Sep. 2006	• Commencement of recycling of JAL plastic packaging material waste in China
		Jan. 2007	• Creation of a trial underlay sheet made of JAL plastic packaging material waste
	Investigation into the recycling of garbage produced from flights	Apr. 2005	• Commencement of recycling of in-flight magazines at Narita Airport
		May. 2006	• Commencement of recycling of in-flight magazines at Kansai Airport
		Oct. 2006 - Mar. 2007	• Discussion with relevant departments at Narita Airport regarding a plan to increase in-flight waste paper recycling

(*) Since August of 2001, the dispatch of tourism experts and lectures has been transferred to Personnel Department of JAL.

✈ 評議員・役員 Councilors, Directors, Auditors, Chairman

評議員

Councilor

青木 周司

東北大学大学院理学研究科教授

AOKI Shuji

Professor,
Graduate School of Science,
TOHOKU UNIVERSITY

柏 頼之

日本航空株式会社
取締役専務執行役員

KASHIWAGI Yoriyuki

Director, Senior Managing Executive
Officer Japan Airlines Co., Ltd.

下村 満子

ジャーナリスト
一般財団法人東京顕微鏡院特別顧問

SHIMOMURA Mitsuko

Journalist
Special Advisor
Tokyo Kenbikyoin Foundation

進 俊則

公益社団法人日本航空機操縦士協会
会長

SHIN Toshinori

Chairperson
Japan Aircraft Pilot Association

田口 久雄

一般財団法人日本航空協会監事

TAGUCHI Hisao

Auditor,
JAPAN AERONAUTIC ASSOCIATION

原口 宰

株式会社ジェイアール東日本企画
相談役

HARAGUCHI Tsukasa

Adviser
JR East Marketing &
Communications, Inc

理事長

Chairman

赤坂 祐二

日本航空株式会社
代表取締役会長

AKASAKA Yuji

Representative Director,
Chairperson Japan Airlines Co., Ltd.

常務理事

Managing Director

池田 了一

常勤

IKEDA Ryoichi

Managing Director
JAL FOUNDATION

理事

Director

安岡 善文

東京大学名誉教授

YASUOKA Yoshifumi

Professor Emeritus
University of Tokyo

早水 研

公益財団法人日本ユニセフ協会
専務理事

HAYAMI Ken

Executive Director
The Japan Committee for UNICEF

壬生 基博

森ビル株式会社 特別顧問

MIBU Motohiro

Senior Advisor
MORI BUILDING CO., LTD.

宮下 恵美子

一般社団法人日本英語交流連盟
副会長

MIYASHITA Emiko

Vice Chair,
English-speaking Union of Japan

監事

Auditor

徳永 信

宗和税理士法人社員税理士

TOKUNAGA Shin

SOWA Tax Corporation Partner

北田 裕一

日本航空株式会社常勤監査役

KITADA Yuichi

Audit & Supervisory Board Member,
Japan Airlines Co., Ltd.

[2025 年 3 月 31 日現在 / as of 31 March 2025]

✈ 賛助会員 Supporting Members

合計 45 社 Total 45 companies

株式会社梓設計
Azusa Sekkei Co., Ltd.

株式会社エージーピー
AGP Corporation

株式会社オーエフシー
OFFICIAL FILING CO., LTD

岡三証券株式会社
Okasan Securities Co., Ltd.

沖縄給油施設株式会社
Okinawa Fueling Facilities Co., Ltd.

空港施設株式会社
AIRPORT FACILITIES CO., LTD.

三愛オブリ株式会社
SAN-AI OBBLI CO., LTD.

株式会社ジェイエア
J-AIR Corporation

株式会社ZIPAIR Tokyo
ZIPAIR Tokyo Inc.

株式会社ジャムコ
JAMCO Corporation

株式会社JALインフォテック
JAL Information Technology Co., Ltd.

株式会社JALエービーシー
JAL ABC, Inc.

株式会社JALエアテック
JAL Airtech Co., Ltd.

株式会社JALエンジニアリング
JAL Engineering Co., Ltd.

株式会社JALカーゴサービス
JAL Cargo Service Co., Ltd.

株式会社JALカーゴサービス九州
JAL Cargo Service Kyushu Co., Ltd.

株式会社JALグランドサービス
JAL Ground Service Co., Ltd.

株式会社JALグランドサービス大阪
JAL Ground Service Osaka Co., Ltd.

株式会社JALグランドサービス九州
JAL Ground Service Kyushu Co., Ltd.

株式会社JALグランドサービス札幌
JAL Ground Service Sapporo Co., Ltd.

株式会社JAL航空みらいラボ
JAL AVIOFUTURE LAB Co., Ltd.

株式会社JALサンライト
JAL Sunlight Co., LTD.

株式会社JALスカイ
JAL SKY CO., LTD.

株式会社JALスカイ大阪
JALSKY OSAKA CO., LTD.

株式会社JALスカイ金沢
JALSKY KANAZAWA CO., LTD.

株式会社JALスカイ九州
JALSKY KYUSHU CO., LTD.

株式会社JALスカイ札幌
JALSKY SAPPORO CO., LTD.

株式会社JALUX
JALUX Inc.

株式会社JALナビア
JAL Navia Co., Ltd.

株式会社JALファシリティーズ
JAL Facilities Co., Ltd.

株式会社JALブランドコミュニケーション
JAL Brand Communications Co., Ltd.

株式会社JALマイレージバンク
JAL Mileage Bank Co., Ltd.

株式会社JALメンテナンスサービス
JAL Maintenance Service Co., Ltd.

株式会社ジャルカード
JALCARD Inc.

株式会社ジャルパック
JALPAK Co., Ltd.

JALスカイエアポート沖縄株式会社
JAL SKY Airport Okinawa Co., Ltd.

ジャルロイヤルケータリング株式会社
JAL Royal Catering Co., Ltd.

大和証券株式会社
Daiwa Securities Co., Ltd.

日航関西エアカーゴ・システム株式会社
JAL Kansai Aircargo System Co., Ltd.

日本エアコミューター株式会社
Japan Air Commuter Co., Ltd.

日本空港ビルディング株式会社
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

日本航空株式会社
Japan Airlines Co., Ltd.

日本トランスオーシャン航空株式会社
Japan Transocean Air Co., Ltd.

みずほ証券株式会社
Mizuho Securities Co., Ltd.

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
Mitsubishi UFJ Morgan Stanley Securities Co., Ltd.

[2025年3月31日現在／as of 31 March 2025]